

平成29年度
(平成28年度対象)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

教育委員会の点検・評価

印西市教育委員会

目 次

1	点検評価について	1 頁
(1)	趣旨	2 頁
(2)	点検評価の対象	2 頁
(3)	点検評価の方法	2 頁
(4)	点検評価の構成	3 頁
2	印西市の教育施策	4 頁
(1)	教育施策の基調	5 頁
(2)	主な施策	6 頁
(3)	教育施策の体系	8 頁
3	点検評価結果	9 頁
(1)	点検評価結果目次	10 頁
4	評価のまとめ	31 頁
(1)	評価内訳	32 頁
(2)	施策別評価	34 頁
(3)	学識経験者の知見の活用	34 頁

1 点検評価について

(1) 趣旨

市教育委員会では、平成17年度から教育施策の基調を「健やかな心と体を育む教育」と定め、この基調による目標のもと、事業の実施に努めているところですが、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、「教育委員会は、毎年その教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表すること」となりました。昨年度は、平成27年度「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、各分野の学識経験者の皆様よりご意見をいただき、報告書を取りまとめ、公表しました。この「内部点検評価」の作業及びいただいたご意見を参考にすることで、平成28年度中に施策の進捗状況を再確認し、効果的な施策の展開に寄与することができたと考えております。

今年度も平成28年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめました。これを公表し、市民のみなさまからご意見をいただき、よりよい教育の実現に向けて、取り組みを進めてまいりたいと考えています。

(2) 点検評価の対象

点検評価の対象は、平成28年度版印西市の教育施策（以下「教育施策」という。）における事業の実施内容について、点検を行い、印西市教育委員会としての自己評価を報告書としてまとめました。

(3) 点検評価の方法

点検評価の方法は、教育施策中の「主な事業」毎に、平成28年度に実施した実施内容及び実績を明らかにするとともに、それに基づいた施策の内部評価を客観的に行い、課題を分析し、今後の事業に活かすものとしします。なお、法律に明記されている「学識経験を有する者の知見の活用」については、学校教育、生涯学習、スポーツ振興それぞれの分野の学識経験者の皆様（元市学校長、元市社会教育指導員、市体育協会役員）に、御意見をいただきました。

(点検評価の流れ)

○事業点検…主な事業毎の事業内容点検（点検者：担当課長）

↓

○施策評価…主な事業評価（評価者：教育長、部長。学識経験者知見活用）

↓

○総合評価…教育委員会会議における最終評価（評価者：教育委員）

(4) 点検評価結果の構成

教育施策中の「主な施策」毎の「主な事業」における「事業内容」を平成28年度に実施すべき事業目標と位置付け、この実施状況について点検を行い、「主な事業」毎に内部評価しています。

表の項目について

○事業……「主な事業」毎に掲げている事業です。

○事業内容（平成28年度目標）……事業の具体的内容です。教育施策は、当該年度の事業計画書であり、教育施策中の主な事業における「事業内容」は、実施すべき具体的事業内容であることから、平成28年度目標と位置付けています。

○平成28年度実績……平成28年度目標に対し、実際に実施した事業の内容、回数などを具体的に記載しています。

○施策評価……「主な事業」毎に、事業の進捗を点検し、印西市教育委員会が内部評価しました。評価指標は「S、A、B、C」の四段階評価とし、以下の内容を基準としています。

S 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。

A 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。

B 目標の一部が達成できなかった。

C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

○評価理由……「S、A、B、C」の評価を行った理由を示しています。

○今後の課題……重点施策の実現に向けて、今後の方向性を示しています。

《参考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 印西市の教育施策

印西市基本構想

将来都市像

ひと まち 自然 笑顔が輝く いんざい

将来の都市像実現のため6つの柱

- 1 恵まれた自然の中でやすらぎを持って生活できるまちをつくる《生活環境》
- 2 やさしさを持っていきいきと暮らせるまちをつくる《健康福祉》
- 3 地域の持つ可能性を活かした魅力あるまちをつくる《産業振興》
- 4 健やかな心と体を育み未来を拓くまちをつくる《教育・文化》
- 5 快適で暮らしやすい都市機能の充実した美しいまちをつくる《都市基盤》
- 6 市民と行政がともに歩み健全で自立したまちをつくる《住民自治・協働・行財政》

印西市教育大綱

教育施策の基調

【健やかな心と体を育む教育】

主な施策

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

- ◇学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進
- ◇安全で安心できる教育環境づくり

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

- ◇年齢にとらわれずいきいきと暮らすための生涯学習活動
- ◇地域で子どもたちを守り育てる環境づくり
- ◇市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

- ◇創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承
- ◇文化財の保護・活用 ◇市史編さん事業の推進

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

これからの教育には、変化の激しい社会を担う子どもたちに、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の3本を柱とする「生きる力」をつけることが求められている。

その中でも本市は、特に健やかな心と体を育む教育を基調とし、道徳教育の充実や豊かな体験活動、情報教育やICT活用の推進、芸術文化体験事業や読書活動の推進、教科体育の充実、運動部活動の推進や小学校駅伝競走大会、食育や生活習慣づくりなどを通して健やかな心と体の育成に向けて取り組んでいく。

さらに、教職員の専門性と指導力の向上を図り、子どもの学ぶ意欲の向上に努め、生涯学習の基礎づくりをめざす。

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する〔生涯学習・生涯スポーツ〕

生きがいを持ち、心豊かで充実した生活を送れるよう、生涯にわたって学習できることが重要となっている。さらに、国際化・情報化等の進展に伴う、価値観の多様化と社会の急激な変化に対応するため、情報を見極め、個人の適性に応じた知識や技術を習得し、活用していく必要性が高まっている。

こうした市民の多様な学習ニーズと現代的課題に適切に対応するため、多様な生涯学習情報と公民館・図書館等の学習活動の場を提供することにより、学習機会の拡充を図り、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯にわたってさまざまな分野で自ら学ぶことのできる学習環境をつくり、市民の生涯学習活動を推進する。

また、公民館や図書館等の生涯学習・社会教育施設の維持・管理や指導者の確保、高等教育機関等との連携・協力を図り、生涯学習推進体制を充実する。

さらに、親と子の絆を強めて、子どもの生きる力の基礎となる家庭教育を充実させるとともに、子ども達が安全・安心で健やかに成長できるように、地域で行われる青少年健全育成活動を推進し、地域で活動する市民団体を支援する。

スポーツ・レクリエーション活動は、市民の「こころ」と「からだ」の健全な発展をうながし、明るく豊かで活力に満ちた生きがいある社会の形成に寄与するものである。しかし、社会背景の変化に伴い、運動不足や体力の低下が問題となっている。

このような状況の中で、当市においても高齢化の進展、余暇時間の増大、そして

ライフスタイルの個性化・多様化などにより、スポーツに対する関心が高まり、気軽にスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会の拡充が強く求められている。

このことから、市民が心身ともにたくましく健康で明るい生活が送れるよう、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢に応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しめる機会の拡充を一層推進する。

Ⅲ．心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

私たちを取り巻く社会環境の大きな変化に伴い、多様なライフスタイルが追求され、暮らしに生きがいやゆとり、潤いをもたらす文化的価値が重視されてきている。

こうした中で、市民一人一人がゆとりある充実した生活をおくるためには、文化に親しみ、自ら文化創造の担い手となることを基本として、魅力に富んだ地域文化の形成が求められている。

また、文化は古くからその地域の自然・歴史・伝統と共存しながら、そこに住む人々の長い生活の営みによって育まれ、独自のものを形成してきた。ところが、昨今の急激な都市化の進展に伴い、社会構造や生活環境が大きく変貌する中で、伝承されてきた生活技術や習慣の多くが忘れ去られようとしている。

このことから、市民の自主的で創造的な文化芸術活動の推進や市民の文化芸術に対する関心を高めるため学習機会や学習情報の提供などを積極的に行い、ゆとりと潤いのある文化芸術活動の盛んなまちづくりを展開する。

さらに、市民の心のよりどころとなる文化遺産を保護し、次の世代に継承するため、積極的に調査研究するとともに、その保存・活用に努め、伝統文化の振興を図る。

印西市の教育施策の体系

基調

主な政策

主な施策

主な事業

健やかな心と体を育む教育

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む
〔学校教育〕

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する
〔生涯学習・生涯スポーツ〕

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る
〔文化〕

1 学び力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

2 安全で安心できる教育環境づくり

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承

2 文化財の保護・活用

3 市史編さん事業の推進

- (1) 学ぶ力を育む教育の充実
- (2) 豊かな心を育む教育の充実
- (3) 健やかな体を育む教育の充実
- (4) 学校給食の充実

- (1) 教育環境整備の充実
- (2) 学校の適正規模・適正配置の推進
- (3) 学校安全の推進
- (4) 開かれた学校づくり
- (5) 情報化社会に対応した教育の推進

- (1) 生涯学習ガイドの発行
- (2) 市民ア카데미の充実
- (3) 公民館・地域交流館事業の充実
- (4) 図書館サービスの充実
- (5) 視聴覚資料を活用した学習機会の充実
- (6) 生涯学習まちづくり出前講座の実施
- (7) 生涯学習環境の整備・充実
- (8) 生涯学習の進捗・協力
- (9) 社会教育関係団体の支援

- (1) 「こども110番の家」の推進
- (2) 青少年健全育成大会の実施
- (3) 地域ぐるみさわやかコミュニケーション推進事業の充実
- (4) 高齢者や異年齢と関わる事業の実施
- (5) 成人記念式典の実施
- (6) 子ども読書活動の推進
- (7) 家庭教育学級の充実

- (1) スポーツ参加機会の拡充
- (2) 特色あるスポーツ事業の展開
- (3) スポーツ・レクリエーション施設の充実
- (4) スポーツ指導者等の育成
- (5) 総合型地域スポーツクラブへの支援

- (1) (仮称)文化芸術振興計画の策定
- (2) 文化・芸術に触れる機会の拡大
- (3) 市民の自主的な活動の支援
- (4) 子どもをはじめとする次世代の育成

- (1) 文化財の保護
- (2) 文化財の活用

- (1) 市史編さん事業の推進
- (2) 地域史料の保存と活用

3 点検評価結果

点検評価結果 目次

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな心と体を育む教育の推進

(1) 学ぶ力を育む教育の充実	11頁
(2) 豊かな心を育む教育の充実	14頁
(3) 健やかな体を育む教育の充実	15頁
(4) 学校給食の充実	16頁

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1) 教育環境整備の充実	17頁
(2) 学校の適正規模・適正配置の推進	17頁
(3) 学校安全の推進	18頁
(4) 開かれた学校づくり	18頁
(5) 情報化社会に対応した教育の推進	19頁

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1) 生涯学習ガイドの発行	20頁
(2) 市民アカデミーの充実	20頁
(3) 公民館・地域交流館事業の充実	20頁
(4) 図書館サービスの充実	21頁
(5) 視聴覚資料を活用した学習機会の充実	21頁
(6) 生涯学習まちづくり出前講座の実施	22頁
(7) 生涯学習環境の整備・充実	22頁
(8) 産学官民の連携・協力	22頁
(9) 社会教育関係団体の支援	22頁

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1) 「こども110番の家」の推進	23頁
(2) 青少年健全育成大会の実施	23頁
(3) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	23頁
(4) 高齢者や異年齢と関わる事業の実施	23頁
(5) 成人記念式典の実施	24頁
(6) 子ども読書活動の推進	24頁
(7) 家庭教育学級の充実	24頁

3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

(1) スポーツ参加機会の拡充	25頁
(2) 特色あるスポーツ事業の展開	25頁
(3) スポーツ・レクリエーション施設の充実	25頁
(4) スポーツ指導者等の育成	26頁
(5) 総合型地域スポーツクラブへの支援	27頁

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承

(1) (仮称)文化芸術振興計画の策定	28頁
(2) 文化・芸術に触れる機会の拡大	28頁
(3) 市民の自主的な活動の支援	28頁
(4) 子どもをはじめとする次世代の育成	29頁

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護	29頁
(2) 文化財の活用	29頁

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進	30頁
(2) 地域史料の保存と活用	30頁

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな心と体を育む教育の推進

(1) 学ぶ力を育む教育の充実

事業	事業内容 (平成28年度目標)	平成28年度実績
①きらり輝く印西の子ども育成事業の推進	○特色ある教育活動への支援	○特色ある教育活動が特に顕著な9校を中心に、すべての学校の教育活動を支援した。
	○小学校駅伝競走大会の開催	○小学校21校の参加により実施。男女合わせて65チームが出場した。
②読書活動の推進 (ア) 学校図書館の資料の整備充実	○学校間貸し出しの充実	○学校図書館担当職員を核として、学校図書館司書が補佐しながら充実に努めた。
	○図書システムの活用による学校間貸し出しの推進	○図書システムを活用し、学校間貸し出しを行った。
	○計画的な図書資料の選定と購入	○文部科学省が示す学校図書館図書標準に基づき、児童生徒への指導に適した蔵書の選定と購入を行った。
	○蔵書点検の実施	○小学校10校で実施した。
(イ) 市立図書館との連携事業の開催	○学校図書館担当者会議、学校図書館司書連絡会での情報交換	○学校図書館担当者の会議を年2回、学校図書館司書の連絡会を年11回実施した。
	○市立図書館からの団体貸し出しの利用促進	○学校図書館担当者会議において、市立図書館担当者から学校担当者へ、直接、利用方法等の説明を行うとともに、市立図書館から学校施設に対し282回の貸し出しを行った。
	○スクール便貸し出し事業	○市立図書館からスクール便として、小学校19校、中学校6校に、年3回ずつ資料のセット貸し出しを行った。
	○図書館司書研修会の開催	○市立図書館司書と学校図書館担当の会議を実施した。
(ウ) 学校図書館の環境整備と機能の充実	○司書の適切な配置	○図書館司書10名を全小・中学校30校に配置した。
	○学校図書館司書連絡会の定期的な開催	○小学校9校を会場として学校図書館司書連絡会を実施し、環境整備と機能の充実に努めた。
③幼児教育の充実 (ア) 情報提供と学習機会の充実	○幼児教育に関する様々な情報の提供	○幼稚園、保育園、小・中・高等学校の教諭による就学前ネットワーク部会を開催し、情報の共有・連携を図った。また、保護者会や園だより等を通じ、園児の様子や幼児教育に係る情報を積極的に提供した。
	○園外研修等への積極的な参加	○各幼稚園に対し、夏季実技研修会や市教育センター主催研修等への参加を奨励し、それぞれに複数の職員が参加した。
	○組織的・計画的な園内研修の推進	○幼児教育充実のために、運動遊びや特別支援教育に係る園内研修会を実施した。
	○保護者会や地域懇談会の開催	○保護者会、個人面談、保育参観等を通じて、保護者への情報提供に努めた。また、地域の方と園児との交流の機会を設けた。
(イ) 幼稚園・小学校・中学校の連携	○職場体験を通じての交流	○小学校職場見学や中学校職場体験学習を通して交流した。
	○諸行事を通じての交流	○合唱会や生活科学習、家庭科実習などを通して交流した。
	○情報交換会の開催	○生徒指導会議、特別支援教育研修会などを通じ、情報交換を行った。
(ウ) 個に応じた教育の推進	○子ども発達センターとの連携	○年度の始めと年度途中で連携して巡回指導を行った。就学前、就学後の児童生徒や保護者についての情報交換を行った。
	○介助や指導補助のための非常勤職員の配置	○学校や児童生徒の実態に応じて学習指導員や介助員などを配置し、個に応じたきめ細やかな指導を行った。
	○コスモスファイル(相談支援ファイル)を活用した早期就学相談の実施	○6月に「就学相談会」を実施した。また、年間を通して個別の就学相談を実施した。

④学習指導の充実

(ア) 個性や能力を伸ばす教育の推進

- 学級経営相談支援の実施
- 漢字級別認定テスト「印西漢字マスター」の実施
- 算数暗算テスト「Inzai Legend of Math」の実施
- 社会科ワークテストの活用
- 生徒指導の機能を重視した「わかる授業」展開の推進
- 基礎学力向上のための対策の推進
- 個に応じた指導方法の工夫・改善及び指導体制の充実
- ICTを活用した授業づくりの推進
- 学力向上プロジェクトの実施
- 学校支援ボランティア・学生ボランティアの活用（順天堂大学、日本医科大学看護専門学校との連携）
- 教職インターンシップ「あすなろ先生」の派遣（秀明大学との連携）
- 少人数学習指導員の配置
- デジタル教材の効果的な活用

(イ) 教職員研修（主任・層別等）の充実

- 教頭研修会の開催
- 教務主任研修会の開催
- 学年主任等研修会の開催
- 生徒指導担当者研修会の開催
- 情報教育研修会の開催
- 国際理解教育担当者研修会の開催
- 学校図書館担当者研修会の開催
- 体育主任研修会の開催
- 安全主任研修会の開催
- 養護教諭研修会の開催
- 特別支援教育コーディネーター研修会の開催
- 教育相談研修会の開催
- 道徳教育授業実践研修会の開催
- 若年層研修会の開催

(ウ) 指導法等の研修の充実

- 全教科教材研究等に関する研修会の開催

○要請に応じて学校を訪問し、基本的な授業技術の向上や適切な学級事務の進め方等について助言・支援した。

○漢字級別認定テスト「印西漢字マスター」を年間3回実施した。また、5名の運営委員により練習問題の改訂や中学校版の検討を行った。

○計算コンテンツ「Inzai Legend of Math」を年間3回実施した。また、5名の運営委員により実施手順や問題を改訂した。

○社会科副読本「わたしたちの印西市」に準拠したワークテスト（小4版）の活用を推奨した。

○各学校を年2回訪問し指導・助言するとともに、学校の要請に応じて訪問指導を実施した。

○各学校でドリルタイム設定等の工夫をし、計算・漢字等の基礎学力の向上を図った。

○教育センターの教科等の研修会で扱った。

○既存の電子黒板やPC、書画カメラやタブレットPC等を利用した授業を実施した。

○学習指導案を作成しての授業研究を全教職員が行い、指導力の向上を図った。また、指導主事を積極的に派遣した。

○851名のボランティアを延べ10,860回活用し、学習指導の充実と学習環境の整備を図った。

○小中学校に22名派遣し、学校の活性化を図った。

○学務課と連携し、学校の実態に応じて適切に配置している。

○小学校16校のPC教室の端末をタブレット型に入れ替え、話し合い活動や映像資料を授業に活用した。

○全小中学校の教頭を対象に、特別支援教育について年1回の研修会を実施した。

○全小中学校の教務主任を対象に校務システムについて年2回の研修会を実施した。

○全小中学校の学年主任等を対象に、学年主任の在り方について研修会を実施した。

○全小中学校生徒指導会議を年3回実施した。

○全小中学校の担当教員等を対象に、教育の情報化等について年1回の研修会を実施した。

○全小中学校の担当教員等を対象に年2回の研修会を実施した。

○全小中学校の担当教員等を対象に年1回の研修会を実施した。

○小学校体育主任を対象に年2回、中学校保健体育科主任を対象に1回研修会を実施した。

○全小中学校の安全主任を対象に、安全教育の取組及び安全主任の役割について、年1回の研修会を実施した。

○全小中学校の養護教諭を対象に、校務システムの活用方法について、年1回の研修会を実施した。

○全小中学校の特別支援コーディネーターを対象に、役割とその取組みについて、年1回の研修会を実施した。

○全小中学校から希望があった職員を対象に、不登校対応・指導法等について、6回の教育相談基礎講座を実施した。

○全小中学校から1名ずつ推薦された職員を対象に、理論研修・実践研修・実践報告会の順で年3回の研修会を実施した。

○全小中学校から希望があった職員を対象に、人間関係づくりと授業づくりのポイントについて、年1回の研修会を実施した。

○教育センターにおいて、6教科と道徳、外国語活動において9講座を開催し、指導力の向上に努めた。

	○学習指導法等に関する研修会の開催	○教育センター主催の各教科等の研修会で扱った。
	○実技研修会の開催	○教育センター主催研修会で、理科や体育、ICT活用についての実技研修を実施した。
	○ICT活用研修会の開催	○教育センター主催研修会で、教科指導における情報教育やICT活用研修を実施した。
	○ICT実技研修会の開催	○全小中学校から希望があった職員を対象に、学校図書館システムの活用方法について、年1回の実技研修会を実施した。
	○特別支援教育研修会の開催	○介助員を含めた研修を年2回実施した。また、各小中学校から希望があった職員を対象に、通常学級における特別支援教育の研修会を実施した。
	○人権教育研修会の開催	○各小中学校において、学校人権教育研修会を実施し、指導主事が指導に当たった。
	○授業相談支援の実施	○要請に応じて、教育センターや学校で相談支援や授業実践、研修会により助言・支援した。
	○各種出前授業の開催	○要請に応じて、SNSネットリテラシー授業や教科等の授業を延べ12回行った。
(エ) 校内研修の支援	○授業研修での指導・助言	○各小中学校に指導主事等を派遣し、指導・助言を行った。
	○評価についての研修の支援	○指導主事を派遣し、思考・判断・表現力の育成を中心に指導・助言を行った。
(オ) 教育課題の調査・研究・開発	○基礎学力調査と活用	○学校の要請による授業研究会等において、評価規準や評価方法についての指導を行った。
	○教育に関する調査・研究・開発	○全国学力・学習状況調査及び千葉県標準学力検査の結果について調査し、考察を加えて各学校に指導法改善の周知を図った。
	○教育研究の奨励・普及	○各教育研修会や学校の研修会で奨励や普及に努めた。
	○教材の研究開発	○教育センターにおいて、社会科副読本や漢字・計算コンテンツ、SNS等対応ネットリテラシー教材等を改訂した。
	○教科指導法の指導・支援	○指導主事を派遣し、教科指導に関する指導及び支援を行った。
(カ) 市教育研究会支援事業	○教職員による自主講座の支援	○特別支援教育担当者が理論や指導法に関する研修を実施した。
	○市教育研究会の運営支援	○指導主事の派遣による指導・助言を行った。
	○市教育研究会への指導・助言	○指導主事の派遣による指導・助言を行った。
	○各研究団体の活動支援	○要請に応じ、指導主事を派遣した。
⑤国際理解教育の推進	○外国語指導助手(ALT)の活用	○ALTを各中学校区に9名、6小学校に2名配置した。
	○日本語指導員の派遣	○日本語を話せない児童生徒のために日本語指導員を派遣した。
	○小学校高学年における外国語活動の充実	○全ての小学校5・6年生における外国語活動を実施した。
	○小学校低・中学年における国際理解教育推進	○低学年においては年間8時間程度、中学年においては17時間程度、ALTを活用して授業を実施した。
	○小学校高学年、中学1・2年生英語キャンプの実施	○市内配置のALTを活用し、小学校高学年向けに、夏季休業中の2日間日帰りを実施、中学1・2年生向けに12月の土曜日に1日英語研修を実施した。
	○日本人英語コーディネーターの活用	○3名のコーディネーターを外国語活動の研究指定を受けた4小学校に配置し、ALTの活用、小学校英語の教科化に向けた指導案の蓄積、指導方法の研究をすすめた。
	○中学生海外派遣研修の実施	○8月に6泊7日の日程で、オーストラリア・シドニー市を中心に、市内在住中学生20名を派遣し、現地校との交流、英語研修、オーストラリアの歴史や文化に触れた。
⑥特別支援教育の推進		
(ア) 特別支援体制の充実	○個別指導計画、教育支援計画の作成と活用	○実態調査を行い、個別の指導計画を作成して一人ひとりに対応した指導・支援を行った。
	○特別支援学級介助員の配置	○41名を配置した。
	○通常学級指導員の配置	○28名を配置した。
	○校内支援体制の充実	○巡回指導、専門家チームを実施し、各校への支援を図った。

(イ) 就学指導の推進	○家庭、医療、関係機関等との連携 ○適応指導教室との連携	○一人ひとりのニーズに合わせた対応を図るため、必要に応じて指導・支援の方法について連絡調整を図った。 ○特別に支援を必要とする児童生徒に対し、支援の方法について連携を図った。
	○研修会の開催 ○就学指導委員会の開催 ○早期就学相談、継続相談の実施	○コーディネーター・通常学級担任・非常勤職員に向け、研修会を実施した。 ○10名の委員により、年3回開催した。 ○6月に「就学相談会」を実施した。また、年間を通して、個別の就学相談を実施した。
⑦キャリア教育の推進	○関係課（社会福祉課・健康増進課・保育課・子育て支援課・指導課）担当者会議の実施 ○中学校職場体験学習（印西市生き生き体験）の実施と小学校職場見学学習の支援 ○地域の企業、職業人との連携	○市内の支援体制整備、ネットワーク部会の開催について、年7回開催した。 ○市内156事業所の協力のもと全中学校で実施した。職場見学・体験等全小学校で実施した。 ○小中学校において、体験活動や講話等を実施した。

施策評価	A
評価理由	コンテンツ開発等は順調に進んでいるが、その他の事業については概ね例年どおりの実績であるため。
今後の課題	漢字・計算コンテンツの周知と活用、各種研修会の内容の充実。

(2) 豊かな心を育む教育の充実

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28実績
①道徳教育の充実	○道徳教育全体計画の改善と校内推進体制の充実 ○道徳教育授業実践研修会の開催	○各学校の道徳教育推進教師を中心に計画の見直しや指導の実践を図った。 ○教職員の指導力向上のため、年3回（理論研修・実践研修・実践報告会）の研修を設けた。
②人権教育の推進	○人権教育全体計画の改善と心を育てる教育の充実 ○人権教育研修の実施 ○いじめに関するアンケートの定期的な実施 ○家庭・地域や関係機関との連携による人権意識の啓発	○法令等を再確認し、学校での取組みについて指導した。 ○全ての小中学校において、学校人権教育研修会を実施した。 ○学校の実態に応じて、年2～3回実施した。 ○学校だよりをはじめ、学年・学級だより、ホームページにおいて学校の取組みについて情報の発信を図った。
③体験活動の推進	○奉仕等体験活動の実施 ○自然体験学習等の実施 ○みどりの少年団活動の推進 ○自然観察会の実施 ○親子体験学習の実施	○学校や地域の美化活動を中心に実施した。 ○各学校において、児童生徒の実態に応じた自然体験学習を実施した。 ○市内全校が緑化活動に取組んだ。みどりの少年団交流集會に2校が参加した。 ○里山観察会（年2回）と星空観望会を実施し、合計93名が参加した。 ○産学官連携科学講座、わら細工体験教室、科学実験教室を実施し、合計104名が参加した。
④郷土愛を育む教育の推進	○各小・中学校に設置している「歴史資料室」の内容の充実 ○地域の伝統芸能の体験 ○社会科副読本の活用による地域の先人の業績の学習 ○地域教材の開発 ○郷土の特色を生かした授業、行事の教育センターホームページを使った発信	○夏季社会科研修会において、そうふけふれあいの里の歴史資料室を見学することを通して、各学校の参考となるようにした。 ○永治小学校、小林小学校、印西中学校、本基中学校などが神楽等の伝統芸能を体験した。 ○大菅喜一、吉植庄一郎・庄亮を取り上げ、各学校で先人の業績の学習に役立てた。 ○社会科副読本に、手賀沼の干拓や戦後の草深の開拓を地域教材として盛り込んだ。 ○教育センターホームページから、他校の実践等の発信に努めた。

⑥芸術文化体験事業の充実	○さわやかハートフルコンサートの開催 ○小学校芸術鑑賞教室の開催	○全小中学校が参加し、中学校区ごとに合奏と合唱を演奏・鑑賞した。 ○小学校6年生を対象に、古典芸能である狂言と落語を鑑賞した。
⑥適応指導教室事業の推進	○適応指導教室の充実 ○連絡会の実施	○中学生13名、小学生5名(全18名)が通室した。年度内に学校復帰を果たした児童生徒は6名であった。 ○月1回保護者会「あつたまる会」を設け、毎回1~3名程度の保護者が参加し、思いを語り合うことができた。
⑦教育相談の充実	○面接相談・電話相談の充実 ○不登校児童生徒等の相談の充実 ○関係機関との連携 ○訪問指導の充実 ○スクールカウンセラー等の活用	○面談件数は88件、電話相談件数66件であった。そのうち「子ども相談室」の利用11件であった。 ○定期的なケース会議を実施したり、訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカー等と連携を図ったりした。 ○学校だけでなく、市の相談機関との連携を図った。 ○訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカーを活用し、相談の充実を図った。 ○中学校9校・小学校2校に配置されたスクールカウンセラーが、市内小・中学校のケースに関わることができた。
⑧学校問題対策の指導・支援	○学校問題対策指導員による学校への指導・支援	○いじめ防止対策等教育実践上の相談を185件対応した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画通りに事業を行うことができた。
今後の課題	不登校児童生徒の学校復帰の足がかりになるよう、より一層支援や相談体制を整え、指導員や相談員の資質の向上を図っていく。

(3) 健やかな体を育む教育の充実

事業	事業内容(平成28年度目標)	平成28年度実績
①学校体育の充実	○体育主任会議、体育科研修会の開催 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○中学校武道学習における積極的な外部指導者の活用 ○授業や大会等における順天堂大学との連携強化 ○運動に親しむ能力を育成するための授業改善指導	○会議を2回(小中学校各1回ずつ)、実技研修会を1回実施した。 ○小学校21校の参加により実施。男女合わせて65チームが出場した。 ○県事業の特別非常勤講師配置事業を活用し、3名の外部人材を3校に配置し、活用した。 ○小学校駅伝競走大会にて、伴走等で3名の協力を得て実施した。 ○各学校からの要請に基づき、指導主事を派遣し、体育科(保健体育科)学習の授業改善を図った。
②運動部活動の充実	○部活動サポート事業による指導者派遣 ○部活動補助金交付事業による経済的支援	○23名の部活動サポーターを派遣し、競技力の向上を図った。 ○各種郡県大会及び関東大会並びに全国大会の交通費等の経費について援助した。
③学校保健事業の推進 (ア)健康教育の推進	○保健指導教材の整備 ○薬物乱用防止教育の推進	○保健指導教材(血管模型)や、歯科保健指導教材(位相差顕微鏡・かみかみセンサー)を各学校へ貸し出し、事業の充実に努めた。 ○北総地区少年センター職員を講師として、薬物乱用防止教室を実施した。

(イ) 学校保健会の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携 ○各専門部会（学校薬剤師、栄養士、養護教諭）の活動の支援 ○「印西市の学校保健」（小冊子）と学校保健会報の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校保健理事会を1回実施した。 ○学校薬剤師部会2回、栄養士部会3回、養護教諭部会4回実施した。 ○「印西市の学校保健」（小冊子）年1回と学校保健会報を年3回発行した。
(ウ) 健康診断の実施と事後措置の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○就学前児・児童・生徒の健康診断の実施 ○健康診断結果の集計と分析 ○個別指導の充実（治療勧告） 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒への定期健康診断（内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査・結核等）及び就学時健康診断を実施した。 ○健康診断結果を「印西市の学校保健」にまとめた。 ○健康診断結果に基づき、個別指導を実施した。
(エ) 小児生活習慣病の予防	<ul style="list-style-type: none"> ○小児生活習慣病予防検討部会の開催（学校医、養護教諭、栄養教諭等） ○小児生活習慣病予防検診の実施（小学校5年生、中学校1・3年生対象） ○養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防教室及び事後指導・個別相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回開催し、結果に基づいた事後指導等について検討した。 ○小学5年生、中学1年生・3年生を対象に実施し、必要な者には受診勧奨を行った。 ○小学5年生、中学1年生を対象に予防教室を行った。（小学校1時間、中学校2時間）また、必要に応じて個別に事後指導や相談を行った。
(オ) 口腔衛生事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校歯科保健検討部会の開催（学校歯科医、養護教諭、歯科衛生士等） ○学校歯科医、歯科衛生士等による歯科相談・ブラッシング指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回開催し、その結果に基づいた事後指導及びブラッシング指導等について検討した。 ○学校歯科医や歯科衛生士による歯科保健指導を全ての小中学校で実施した。
(カ) 保健室機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○保健室の整備 ○健康相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校からの要望に基づき、必要に応じて備品等の整備を行った。 ○養護教諭を対象とした研修を実施した。
④学校環境衛生事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○環境衛生検査の実施（水質検査、照度検査、空気検査等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○照度、照明検査、飲料水・プール水質検査、空気環境調査（ホルムアルデヒド・二酸化炭素・二酸化窒素）、ダニアレルゲン検査、配膳室衛生検査を実施した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画通りに事業を行うことができた。
今後の課題	中学校保健体育、武道の授業における安全管理と安全教育の徹底を図ること。

(4) 学校給食の充実

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①学校給食の充実 (ア) 食に関する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「印西市食育ミニマム」や食に関する指導の全体計画に基づいた組織的な指導 ○栄養教諭等・養護教諭・学級担任らの連携による食育指導 ○栄養教室・食育の授業の開催（全小学校1・3年生、希望する小学校の2・4・6年生に実施） ○小児生活習慣病予防検診事後指導の開催（全小学校5年生・中学校1年生対象） ○家庭・地域と連携した食育の推進 ○ちば食育ボランティア、ちば食育サポート企業の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員への周知を強化し、「印西市食育ミニマム」に基づいた組織的な指導を実施した。 ○各種授業や給食時の訪問などで連携を図りながら実施した。 ○小学1年生「みんなの給食」、小学3年生「野菜パワーのひみつ」を全クラスに実施した。小学2年生「3つのなかまわけ」（16校）、小学4年生「元気が出る朝ごはんを考えよう」（16校）、小学6年生「栄養を考えた朝食にしよう」（14校）を希望校で実施した。 ○小学5年生「生活習慣病を予防しよう」中学1年生「バランスのとれた食事をして生活習慣病を予防しよう」を養護教諭と給食センター栄養士で全校に実施した。 ○食育つうしんを月1回発行し、家庭への啓発を行った。授業終了後、指導内容がわかる保護者資料の配付とともに家庭と連携した事後活動を実施した。 ○全小中学校に啓発資料を配付し、活用を促した。

(イ) 安全・安心な学校給食の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○献立の工夫と改善 ○衛生管理の徹底 ○給食残渣等の再資源化 ○食物アレルギーへの対策 	<ul style="list-style-type: none"> ○印西市産の食材を45%、千葉県産を19%使用し、地産地消を推進した。 ○衛生管理に関する研修会を行った。 ○給食残渣の堆肥化を業者に委託し、その再資源化を図った。 ○食物アレルギー調査、食物成分表を保護者に配付し、事故防止に努めた。各小中学校でエビペン研修、心肺蘇生法講習会を実施した。
-------------------	--	---

施策評価	A
評価理由	食育を教育課程に位置付け、健康の保持増進を図ることができた。
今後の課題	食物アレルギー対策の充実。印西市食育ミニマムのさらなる活用。

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1) 教育環境整備の充実

事業	事業内容 (平成28年度目標)	平成28年度実績
①小中学校施設整備改修事業の推進【教育総務課】	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模改修工事の実施 ○空調設備工事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○船穂中学校改修工事 (平成27、28年度継続事業) 完了。木刈小学校改修工事 (平成28、29年度継続事業) 工事中。 ○小学校普通教室空調設備設置工事 (平成27、28年度継続事業) 完了。中学校普通教室空調設備設置工事 完了。
②就学援助の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に就学援助を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○要保護・準要保護家庭の小学生216名、中学生121名、児童生徒合わせて337名に対して就学援助費を給付した。
③学校備品の計画的な更新	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽化した児童・生徒用の机・椅子、教育用パソコン及び楽器の更新 	<ul style="list-style-type: none"> ○机・椅子については1,140組を、教育用パソコンについては336台及びその周辺機器を、楽器については小学校で65品目、中学校で14品目を整備した。
④学校給食センター整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食センターの整備推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○中央学校給食センター建設工事 (平成27・28年度継続事業) 完了。印旛学校給食センターアレルギー室設置工事 完了。

施策評価	A
評価理由	計画的に遺漏なく実施した。
今後の課題	平成29年度から開始される高校生等奨学給付金交付事業について、計画的に遺漏なく実施する。

(2) 学校の適正規模・適正配置の推進

事業	事業内容 (平成28年度目標)	平成28年度実績
①学校の適正規模・適正配置の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の適正規模・適正配置に関する基本方針等の策定 ○学校適正配置審議会の開催 ○学校規模や学区 (通学区) の適正化についての検討と調整 	<ul style="list-style-type: none"> ○印西市学校適正規模・適正配置基本方針の策定。 ○学校適正審議会の開催。 ○永治小学校の木刈小学校への統合。

施策評価	A
評価理由	印西市学校適正規模・適正配置基本方針を策定し、永治小学校を木刈小学校に統合した。
今後の課題	学校規模により生じる教育指導上及び学校運営面の課題を解消し、より良い教育環境を整え、教育の質の向上を図るため、引き続き学校適正規模、適正配置を推進する必要がある。

(3) 学校安全の推進

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全教室の実施（全小・中学校） ○防犯教室の実施（全小・中学校） ○避難訓練の実施（全小・中学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前打ち合わせを行い、市内全小中学校で実施した。 ○市内全小中学校で実施した。 ○市内全小中学校で実施した。
②安全管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○防災計画・学校安全マニュアルの見直しと定期的な施設点検の実施に関する指導・助言 ○防犯ブザーの貸与（小学新入生対象） ○メール配信システムの活用（全小・中学校等） ○防災行政無線を活用しての見守り活動の推進（児童の声） ○安全主任研修会の開催 ○「こども110番の家」の推進 ○台風・雷雨・竜巻等自然災害対応安全指導の充実 ○理科薬品の安全管理の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全主任等研修会で実施した。 ○市内全小学生に貸与した。 ○連絡メールにシステムを変更し、各学校で家庭への登録を呼び掛けるようにした。 ○継続的に実施した。 ○印西市の安全教育の取組及び安全主任の役割について、研修会を実施した。 ○PTAと連携して進めている。 ○自然災害対応指導については、気象状況に応じて市内全小中学校で実施した。自然災害対応避難訓練については、2校が実施した。 ○理科薬品管理簿の点検（全校）と薬品庫の点検（7校）を行い、確認事項や改善が必要な点について指導・助言した。
(ア) 児童生徒の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な通学路安全点検の実施と警察・道路管理者等と連携した対応 ○児童・保護者・教師等の点検による全小学校区の安全マップの作成及び関係機関への配布 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校の点検結果に基づいて、関係諸機関・市各課との合同点検を実施した。 ○安全マップを小学校1年生及び転入生に配付した。
(イ) 通学路の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入の推奨 ○災害給付手続きに関する学校への情報提供及び指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校を通じて、加入を推奨した。（加入率100%） ○手引きを配付するとともに、研修会等で指導を行った。
(ウ) 学校管理下における災害共済給付		

施策評価	B
評価理由	事業が概ね計画どおり実施できた。
今後の課題	不審者対応訓練等、地域と連携した防犯教育を充実させること。

(4) 開かれた学校づくり

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①開かれた学校教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページを活用した学校広報の充実 ○教育センターホームページを活用した各学校の取り組みの共有化 ○地域人材の活用（学校・家庭・地域の連携） ○学校評価による学校教育の改善 ○学校公開授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内すべての小中学校がホームページを利用して積極的に情報を発信し、全校で年間約350万件のアクセスを得た。 ○教育センターホームページで各学校の様子や取組を紹介し、情報共有の推進を図った。 ○各学校で読み聞かせや高齢者との交流集会、職業人講話等、工夫して活用を努めた。 ○各学校で学校評価を実施し、結果をホームページ上などで公開している。 ○各学校で公開授業や休日を利用した学習成果の発表会等を実施した。

施策評価	A
評価理由	学校ホームページについては低コストで各学校の情報を公開し、学校経営上プラスの効果をもたらしているため。
今後の課題	地域人材があまり活用されていなかったため、その活用をより積極的に図ること。

(5) 情報化社会に対応した教育の推進

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①学校教育の情報 （ア）教育関係資料の収集・活用・教育広報	<ul style="list-style-type: none"> ○教育資料の収集・活用・提供 ○学校間グループウェアと文書管理システムを活用した教育関係資料・各種文書の電子化及び共有化 ○教育センターホームページによる教育広報推進 ○学校ホームページ及びメール配信システムの広報的機能強化 ○SNS等対応ネットリテラシー教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校で実施した研究授業の指導案約280本をデータベースに加え、他校でも活用できるようにしている。 ○教育委員会からの通達文書はグループウェアを利用して円滑に接受・校内回覧が行われるようにした。 ○センターホームページに各学校の様子や取組を日々紹介し、年間26万件余りのアクセスを得た。 ○小中学校ホームページにて日常的に情報を発信しており、市内小中学校全体で年間約350万のアクセスを得ている。 ○小中学校で児童生徒・保護者を対象としたSNSネットリテラシー出前授業を実施した。
（イ）情報教育及びICT活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○教科指導用ICT関連環境整備の充実 ○校務システムの機能充実 ○校務システムを活用した学籍・成績・保健等の校務情報化の推進 ○公簿や文書、教育情報の電子化の推進 ○各システムやサーバー・端末等の適正な運用管理 ○情報セキュリティポリシー遵守の徹底 ○教育CIO及びICT支援員の配置、ヘルプデスク設置 ○情報教育及び教科におけるICT活用に関する研修の実施及び各学校への出前講座実施 ○学校図書館システムの活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校16校のPC教室の端末の入れ替えを行った。校務用端末についての入れ替えをすることはできなかった。 ○中学校調査書を出力する機能を追加した。また、生徒指導情報の一元管理について周知を図り、機能利用推進を図った。 ○校務システムを利用して指導要録をはじめとする学籍・成績の情報を一元管理し、安全性確保と業務効率化推進を図った。 ○教育委員会からの通達文書のほぼ全てをデジタル化して発信。グループウェアの機能を利用して校内デジタル回覧推進を図った。 ○適宜保守管理を業者に委託し、トラブルの未然防止と早期対応を図った。 ○管理職研修会・異動者対象研修会等で情報セキュリティーポリシーについて伝達し、周知を図った。 ○校務システムヘルプデスクを常設。市内教職員の操作上の質問について迅速に回答することができた。 ○ICT活用に関する校内研修に指導主事が訪問。また、個別の要請に対しても指導主事が対応し、授業での機器利用推進を図った。 ○各学校担当者を対象に図書システム研修会を年2回実施した。

施策評価	A
評価理由	各学校からの情報発信や現存のシステム運用が、概ね順調に行われているため。
今後の課題	「印西市情報化計画」との整合性も含めて、行われるべき機器導入を図っていくこと。

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

[生涯学習・生涯スポーツ]

1 年齢にとらわれずいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1) 生涯学習ガイドの発行

事業	事業内容 (平成28年度目標)	平成28年度実績
①生涯学習ガイドの発行	○生涯学習ガイドの発行 ○冊子内容を市ホームページでも提供	○300部発行、講師、講座、団体、資料、物品、施設情報の掲載を行った。各公民館・図書館・学校・コミュニティセンター・保健センター・老人福祉センター等の窓口へ配布し、閲覧できるようにした。 ○市ホームページへの掲載を行い、随時情報を更新した。

施策評価	A	
評価理由	予定の部数を発行し、利用者への便宜を図ることができた。HPでも掲載することにより、情報を得やすくなっている。	
今後の課題	生涯学習ガイドの利用の機会を増やすため、市民の使いやすさを重視した方法で情報提供を行う必要があること。	

(2) 市民アカデミーの充実

事業	事業内容 (平成28目標)	平成28年度実績
①市民アカデミーの充実	○市の行政、福祉、教育、歴史、文化などを幅広く学ぶ市民アカデミーの実施 ○市民アカデミープロジェクトチームによる学習計画の充実・運営 ○公民館・地域交流館などの事業での活用	○1年生計25回(延べ1,154人)、2年生計18回と自主勉強会を随時、地域活動課程計10回(延べ86人)を実施(市役所、各公民館、中央駅前地域交流館等) ○生涯学習推進班より2名、各公民館・中央駅前地域交流館よりアカデミー担当者各1名、社会教育指導員1名により学習プログラムやアカデミー生の募集の仕方について、協議を行った。 ○谷田武西原つばと森の会(地域交流館)ふるさと案内人協会(中央)の事業に地域活動過程プログラムで参加した。

施策評価	A	
評価理由	公民館・地域交流館6館と生涯学習課で事業を共催し、事業担当を中心に取組むことができた。	
今後の課題	事業プログラム検討や、役割分担などについて明確にしていきながら、事業の内容の充実に努め、受講者の満足度が高いものにする。	

(3) 公民館・地域交流館事業の充実

事業	事業内容 (平成28年度目標)	平成28年度実績
①公民館・地域交流館事業の展開	○市民ニーズや社会的・現代的課題をとらえた事業の実施 ○子ども対象事業の実施	○【小林公民館実施事業】 ゆうぎしつであそぼう! 計190回(延756名) Let's ベビーダンス 1回(24人) 不審者対応入門 1回(18人) 私たちが未来を築くんだ! ~選挙権年齢が満18歳以上に~ 1回(150人) 【そうふけ公民館実施事業】 お菓のはなし 計2回 【中央駅前地域交流館実施事業】 印西市新発見バスツアー 1回(18人) ○【中央公民館実施事業】 ジュニア・コース&遊び発見隊 計9回(延130人)(小林公民館合同事業) 【小林公民館実施事業】 子ども見学デー 計2回(延13人) クラスアート 1回(16人) すぐよく飛ぶ紙ひこうきを作ろう! 1回(40人) 【そうふけ公民館実施事業】 なんでもチャレンジャーズ 計9回(延207人) 【印旛公民館実施事業】 幼児教室『親子であそぼう』 計22回(延856人) 夏休み工芸教室 計4回(延78人) 親子カヌー教室 計2回(延42人) 人形劇を楽しもう 1回(61人) 【本荘公民館実施事業】 どきどき冒険隊 計8回(延138人) 子ども文化教室(生花、茶道、和太鼓) 計21回(延229人) わくわくスポーツ教室 計6回(延117人) 【中央駅前地域交流館実施事業】 わくわく探検隊 計8回(延216人)

	○大人対象事業の実施	<p>○【中央公民館実施事業】 高齢者のためのスマートホン講座 1回(19人) 高齢者のためのタブレット講座 1回(19人) 健康を考える講座～食中毒編～ 1回(20人) 健康を考える講座～熱中症編～ 1回(22人) 終活講座～エンディングノートのすすめ～ 1回(41人) 地域史講座 3回(延122人) 【小林公民館実施事業】 小林カレッジ 計7回(延93人)を実施 【そうふけ公民館実施事業】 味わい工房 計2回(延19人) 男の料理教室 計1回(12人) 【印旛公民館実施事業】 初心者のための囲碁教室 計5回(延82人) 初心者のための絵手紙教室 計3回(延26人) みんなのいけばな教室 1回(21人) 【本埜公民館実施事業】 男の料理教室 計4回(延33人) 【中央駅前地域交流館実施事業】 はつらつクラブ 計9回(延215人) 季節の料理講座 計3回(延47人)</p>
	○団体や行政等との共催事業の実施	<p>○【中央公民館実施事業】 災害対策講座 1回(17人) 青少年おもてなしカレッジ 2回(延29人) マイペースパソコン塾 10回(延70人) キャンプ用品講習会 1回(37人) 【小林公民館実施事業】 小林かるた大会 1回(105人) 【そうふけ公民館実施事業】 ふれあい大会 計1回(10人) 科学あそび 計1回(15人) ふれあいカラOK 計2回(延49人) 理科の自由研究サポート講座 計2回(延14人) 【本埜公民館実施事業】 ふるさと再発見 計4回(延61人) 【中央駅前地域交流館実施事業】 初心者向けパソコン講座 計12回(延224人) 科学あそび 1回(14人)</p>

施策評価	B
評価理由	事業計画に沿った事業を実施するのみならず、時事・社会問題に即して事業を企画・実施できた一方で、参加者人数について定員に満たない事業があった。
今後の課題	事業の内容や開催日時について関係機関等の情報収集を図り、重複を避けるとともに広報活動を充実させて、受講者数が定員に達するよう努力すること。また、地域住民のニーズ及び地域の課題を取り入れた事業の実施、事業内容や開催日時の考慮等によって、より多くの集客を図ること。

(4) 図書館サービスの充実

事業	事業内容(平成28年度目標)	平成28年度実績
①図書館サービスの充実	<p>○図書・視聴覚資料などの貸出</p> <p>○レファレンスサービス・事業・資料の充実</p>	<p>○市内図書館6館において、延べ263,375人の利用者に対し、845,334点の図書館資料貸出を行った。</p> <p>○市内図書館6館において、窓口・電話でのレファレンスを24,155件受け付けた。</p>

施策評価	A
評価理由	多くの利用者に図書館を活用していただくことができた。
今後の課題	利用者の要望に応えられるよう資料収集に努めるとともに、図書館サービスについての広報活動を積極的に行っていくこと。

(5) 視聴覚資料を活用した学習機会の充実

事業	事業内容(平成28年度目標)	平成28年度実績
①視聴覚資料を活用した学習機会の充実	<p>○視聴覚ライブラリー事業の実施</p> <p>○視聴覚資料の貸出</p>	<p>○文化ホール・公民館等を会場に年5回開催(参加者延べ506名)、16mmフィルム試写会を年2回開催(参加者延べ約110名)、家庭教育シアターフォーラムの年6回公民館開催(延べ87名)、家庭教育シアターフォーラムの年13回出前講座開催(延べ131名)</p> <p>○機材・教材の貸出しで多くの団体等が活用した。</p>

施策評価	A
評価理由	ほぼ、計画通りに実施できた。
今後の課題	より多くの市民に楽しんでいただくため、題材を検討していくこと。

(6) 生涯学習まちづくり出前講座の実施

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①生涯学習まちづくり出前講座の実施	○市民の学習機会を増やし、市民参画のきっかけとなる生涯学習まちづくり出前講座の実施	○市ホームページのほか、町内会、自治会等を通じた回覧により、出前講座の周知に努めた。83件 1,764名が受講した。

施策評価	A
評価理由	件数・利用者数ともに若干減少したが、町内会や高齢者クラブ、ボランティア団体等幅広い団体から申込みがあった。利用頻度の多い講座もあり、出前講座が市民に広く浸透している。
今後の課題	利用頻度の高い内容等を分析し、市民ニーズの把握に努めるとともに、関係課を含め出前講座メニューの見直しを進めること。また、講座数自体は減少傾向にあるため、関係課に市民ニーズに沿った講座の新設について協力を求めること。

(7) 生涯学習環境の整備・充実

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①生涯学習環境の整備・充実	○公民館・地域交流館や図書館の適正な維持・改修 ○生涯学習機能の充実 ○社会教育指導員の配置	○各公民館・施設等の老朽化部分の改修を行った。 ○各公民館・交流館で、様々なジャンルの主催事業を展開した。また、各図書館において、幼児・小学生を対象におはなし会や図書館探検隊、図書館クイズ、科学あそび、クリスマス会、一般向け講座等各種事業を実施した。 ○生涯学習課に1名を配置し施策、事業の推進に努めた。

施策評価	A
評価理由	概ね計画通り実施できた。
今後の課題	公共施設等総合管理計画を念頭において、計画的に改修を行う必要があること。

(8) 産学官民の連携・協力

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①産学官民の連携・協力	○大学などの高等教育機関や企業などの連携協力 ○市民・市民団体との連携・協力	○順天堂大学公開講座（順天堂大学・印西市・酒々井町共催）を実施。内容はレクリエーション教室、ダンス教室、バスケットボール教室、サッカー教室、10月23日、11月13日、20日、12月4日の日曜日（全4回）に開催し、市から42名の親子が参加した。 ○市民アカデミーの講師として、NPO法人を含む5市民団体を活用し、講座の充実を図った。

施策評価	A
評価理由	順天堂大学公開講座は、参加者のアンケートでは好評であった。
今後の課題	順天堂大学公開講座では、酒々井町及び順天堂大学とともに協議し、引き続き参加者の満足が得られる事業運営・内容を継続する必要がある。市民アカデミーでは、講座内容に合致する市民団体について活用を検討すること。

(9) 社会教育関係団体の支援

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①社会教育関係団体の支援	○社会教育関係団体の支援 ○ボランティアの育成や地域で活動する個人・団体のネットワーク化の推進	○補助金による活動支援、事業後援等により活動を側面から支援した。（後援：23事業） ○市民アカデミー地域活動課程で、地域活動に取組む人材の育成を図るべく、実際の地域活動の運営にボランティアで参加する講座を設けた。

施策評価	A
評価理由	社会教育団体への支援，市民アカデミーの地域活動課程の開講など，概ね計画通り実施できた。
今後の課題	地域活動課程終了者を地域活動へ導くプログラムを立案すること。

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1) 「こども110番の家」の推進

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①「こども110番の家」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○こども110番運営委員会などの支援 ○こども110番ステッカー・看板の提供 ○こども110番の家災害補償保険の加入 	<ul style="list-style-type: none"> ○こども110番運営委員会を6月に開催し，事業趣旨等の説明により協力依頼や事業の周知を図った。 ○新規の協力申し込みや，破損等による交換などに対応した，協力家庭数及び事業所数の調査を行った。（1，650件） ○協力家庭及び事業所等の不測の事態に備え，保険に加入した。

施策評価	A
評価理由	協力家庭，事業所の確認作業を行うとともに，看板の破損等の交換にも随時対応することで，実効的な効果を高めるよう努めた。協力家庭数は目標値の1，580件に比較し101.8%の達成率であった。
今後の課題	協力家庭数及び事業所等の実態把握のため，現況調査を継続すること。また，周知・協力依頼についても見直しを検討し，子ども110番の事業趣旨をより浸透させ，協力家庭数増加に向け取組む必要があること。

(2) 青少年健全育成大会の実施

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
1 青少年健全育成大会の実施	○「社会を明るくする運動」と連携し，親子で参加し，考える機会となる青少年健全育成大会の実施	○「社会を明るくする運動」とともに，7月2日（土）に開催，「社会を明るくする運動」作文コンテスト表彰者の朗読，小学校・中学校，印西ゆめ太鼓による舞台発表を行った。参加者500名

施策評価	A
評価理由	概ね計画通り実施できた。
今後の課題	青少年健全育成大会実施の周知方法を検討し，参加者の増加を図ること。

(3) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	○中学校区ごとに学校や地域で活動する団体が協力し，コミュニティづくりと生活環境の整備を図る地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	○6中学校区（船穂中，木刈中，小林中，西の原中，滝野中，本壱中）で事業に取組み，安全パトロール，声かけ運動，スポーツ活動，バザー等の様々な事業を地域の団体が連携協力し学校とともに活動した。

施策評価	A
評価理由	推進委員会全大会：平成29年3月18日（土）本壱公民館にて実施。各実施中学校区からの活動報告・状況報告・意見交換を行い，情報の共有化と事業についての理解を深めるなど，概ね計画通り実施できた。
今後の課題	実施中学校区の拡大を図ること。

(4) 高齢者や異年齢と関わる事業の実施

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①高齢者や異年齢と関わる事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○世代交流会への支援 ○各種事業への後援 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども会育成連絡協議会主催事業「世代交流会」の事業運営に協力をする。平成28年度は高齢者クラブとグランドゴルフを行った。 ○生涯学習の推進や青少年の健全育成に寄与すると認められる事業を後援。平成28年度は23事業を後援する。

	○放課後子ども教室の実施	○滝野小学校40名、本荘第二小学校36名の参加があり、それぞれの教室のテーマ毎に年間13回教室を開催した。
施策評価	A	
評価理由	概ね計画通り実施できた。	
今後の課題	登録団体の減少に伴い、子ども会育成連絡協議会の活動が縮小されていくなかで、どのような世代交流会支援を行っていくかが課題である。また、放課後子ども教室の実施については、教室を増やすこと。	

(5) 成人記念式典の実施

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①成人記念式典の実施	○新成人運営スタッフの企画・運営による成人記念式典の実施	○34名の運営スタッフにより、3回の会議を行い、企画・準備にあたり、式典当日の運営を行った。

施策評価	A	
評価理由	対象者1,251人に対して、出席者754人であり、概ね予定通りであった。新成人が運営スタッフとして取組んだことにより、「自分たちの成人式を自分たちで挙げる」という気持ちを感じられる成人式を行うことができた。	
今後の課題	迷惑行為を働く新成人等への対応をどのように行い、円滑な進行ができるかを警備面も含め、関係機関との協議が必要である。また、成人年齢が18歳になった場合の対応、準備が課題である。	

(6) 子ども読書活動の推進

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①子ども読書活動の推進	○図書館での読み聞かせ等の実施 ○学校での読書活動の推進	○通年で行うおはなし会に1,528名（全館）、夏のおはなし会に198名（大森、印旛、本荘）、ぬいぐるみといっしょのおはなし会に33名（本荘）、クリスマス会に298名（大森、小林、小倉台、本荘）、おはなし会スペシャルに87名（そうふけ）の参加者があった。 ○家庭教育学級で図書館司書・学校図書館司書による読み聞かせの指導のほか、ホームページなどを活用した広報・啓発を行った。 ○第三次子ども読書活動推進計画を策定した。

施策評価	A	
評価理由	図書館のおはなし会等の催しに多くの幼児や小学生、またその保護者の参加があった。学校での読書活動の推進については、家庭教育学級における読み聞かせの指導や、広報・啓発など概ね計画通りに実施できた。	
今後の課題	図書館のおはなし会等の催しに、より多くの参加者が集まるよう、内容に工夫をするのと同時に積極的な広報活動を行うこと。	

(7) 家庭教育学級の充実

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①家庭教育学級の充実	○各公立幼稚園・小中学校での家庭教育学級開設 ○家庭教育学級主事会議の開催 ○家庭教育学級運営委員研修会の開催 ○家庭教育指導員の配置	○必修32学級、学年18学級、計50学級開設、参加延べ人数3,205名の方が学級生として学んだ。 ○幼稚園長・小中学校教頭に、家庭教育学級主事を委嘱、指導・助言にあたってもらった。4月14日と2月1日の2回主事会議を開催した。 ○各学級代表者を対象に、4月28日と2月2日の2回研修会を実施した。 ○家庭教育指導員1名を設置し、指導助言にあたった。

施策評価	A	
評価理由	参加者、修了生を含め、学級活動への参加や、主事会議、運営委員研修会も概ね計画通りに実施することができた。	
今後の課題	少子化の影響もあり、1学年の入学者が極めて少ない学校がある一方、地域によっては入居者の増から100名を超える学校があるなど、地域性による学校規模の格差などの課題がある。また、内容面で実効性のある家庭教育の学びとはどのようなものが良いか検討していく必要がある。	

3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

(1) スポーツ参加機会の拡充

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①スポーツ情報システムの充実	○公共施設予約システムの有効活用 ○スポーツ情報の集約と多様な情報の提供	○公共施設予約システム 登録者数3,273組（99組の増） ○市ホームページ、体育協会ホームページ、広報誌へ各種行事等を掲載し、情報提供を行った。また、体育協会の機関だよりの発行を支援した。（年2回）
②市民参加型スポーツの普及・推進	○市民ニーズに対応した各種スポーツ教室の支援 ○高齢者のスポーツ活動の支援	○全9種目のスポーツ教室の開催及び支援を行った。 ○指導者派遣事業や、スポーツ備品等の整備及び貸出しを実施した。
③スポーツによる健康づくりの推進	○ニュースポーツ等の教室・大会の開催及び支援	○スポーツ推進委員による、ニュースポーツ教室（9回）及びニュースポーツ祭（2回）を開催した。
④市民ぐるみのスポーツイベントの推進	○スポーツ医学セミナーの開催 ○イベントの開催や各種スポーツ大会・教室の支援	○腰痛の予防改善をテーマにセミナーを実施した。 ○スポーツフェス（体育の日行事）や実行委員会主催によるラグビーまつり、室内棒高跳を開催した。
⑤スポーツイベントの誘致	○イベントの誘致	○関東大学女子駅伝を開催した。

施策評価	A
評価理由	スポーツフェスの開催や、クライミング教室及びリフレッシュ教室（ソフトエアロビクス・リズム体操・ヨガ）を実施し、スポーツ機会の増加を図ることができた。
今後の課題	多様化するニーズに対応する体制づくりが必要である。

(2) 特色あるスポーツ事業の展開

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①クライミングの普及・推進	○団体の育成と施設の整備検討	○市主催事業として、教室（8回）・体験会（4回）・認定会（3回）を実施した。
②パークゴルフの普及・推進	○団体の育成と利用推進	○パークゴルフ場を整備・運営するとともに、体育の日にパークゴルフ場を無料開放し普及に努めた。

施策評価	A
評価理由	概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	クライミング施設の認定者数を増やすことが必要であり、合格に向けた教室の実施を行っていく必要がある。

(3) スポーツ・レクリエーション施設の充実

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①利用者の視点に立った施設運営	○スポーツ施設の管理・運営 ・総合体育館 ・陸上競技場 ・野球場（7ヶ所） ・テニスコート（23面） ・弓道場（2か所） ・多目的運動広場（2か所） ・パークゴルフ場 ・多目的球技場	○各施設の利用状況（延べ人数） 138,124人 24,572人 194,693人 72,691人 2,414人 24,752人 10,782人 11,027人

②学校体育施設利用の推進	○学校体育施設の利活用の推進	○市内小中学校30校を一般開放し、180団体・4,300人が利用している。(稼働率 小学校89% 中学校92%)
③スポーツ施設利用の多様化への対応	○民間施設の有効活用	○各施設の利用状況 東京電機大学平岡グラウンド 6,169人 六軒河川敷広場 3,210人

施策評価	A
評価理由	概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	一部の施設においては、大会規模により駐車場が不足している。

(4) スポーツ指導者等の育成

事業	事業内容(平成28年度目標)	平成28年度実績
①スポーツ指導者の育成	○スポーツ推進委員活動の促進	○スポーツイベントの企画・立案を行った。 (委員数29名 平均出勤日数16日)
	○スポーツ少年団指導者の拡充と資質向上	○県スポーツ少年団認定養成講習会に参加した。
	○生涯スポーツ等指導者の育成	○県・郡主催のニュースポーツ研修会等に参加した。
②スポーツリーダーバンクの構築	○スポーツリーダーバンク登録者の活用	○リーダーバンク登録者を取りまとめ、団体等からの要請に応じる体制を整えた。
③スポーツボランティアの育成	○スポーツボランティア活動の促進	○各種スポーツイベントを、ボランティアスタッフと連携し運営した。
④スポーツ団体等の活動支援	○体育協会への支援と連携	○体育協会に補助金を交付し、運営や市民大会等の開催を支援した。
	○スポーツ少年団への支援と連携	○スポーツ少年団に補助金を交付し、市交流大会の実施や各大会の開催を支援した。
⑤競技力向上の推進	○市民スポーツ大会の開催	○体育協会が中心となり、19競技48大会の開催を支援した。
	○郡市民体育大会・県民体育大会への選手派遣	○郡市民体育大会において、308人を派遣し、17競技25種目、全競技に参加した。(総合2位) 千葉県民体育大会においては、21競技112名を派遣した。
	○トップレベル選手との交流機会の提供	○ラグビーまつり、関東大学女子駅伝、アスリート教室及び室内棒高跳の開催により、トップレベルの選手との交流機会を提供した。

施策評価	A
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	各団体ともに充実した活動を行っているが、指導者・スポーツボランティアの強化育成に継続的な支援が必要である。

(5) 総合型地域スポーツクラブへの支援

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①総合型地域スポーツクラブの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○総合型地域スポーツクラブの設立支援 ○総合型地域スポーツクラブの充実 ○市民への啓発活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○新規設立に向けて、活動拠点となる施設を検討した。 ○スポーツ備品等を貸出し、活動場所の確保による支援を行った。 ○総合型地域スポーツクラブのポスターを掲示した。
施策評価	C	
評価理由	新規設立に向け、活動拠点となる施設の検討にとどまった。	
今後の課題	活動拠点となる学校施設が飽和状態であり、また民間の参入など市内に多数のスポーツクラブがある中、改めて総合型地域スポーツクラブの必要性のあり方を見直す必要がある。	

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る[文化]

1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承

(1) (仮称)文化芸術振興計画の策定

事業	事業内容(平成28年度目標)	平成28年度実績
①総合的な文化・芸術の振興	○文化・芸術振興の基本となる計画策定に向けた検討	○教育振興基本計画文化芸術編検討委員会会議を年3回開催し、計画の検討を行った。
施策評価	A	
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。	
今後の課題	平成29年度中に、印西市教育振興基本計画文化芸術編として策定すること。	

(2)文化・芸術に触れる機会の拡大

事業	事業内容(平成28年度目標)	平成28年度実績
①文化・芸術事業の充実	○文化ホール主催事業等の実施	○鑑賞型8事業、参加型2事業、地域文化振興型1事業の計11事業を実施した。
施策評価	B	
評価理由	計画した11事業を全て実施できたものの、鑑賞型有料公演のチケット売上げ目標である売上率80%以上を達成できたものは、7事業のうち3事業に留まり、チケットの平均売上率は62%であった。	
今後の課題	公演内容によりチケット売上率に差はあるが、集客の見込める事業だけでなく、幅広い分野の文化・芸術事業の鑑賞機会等の提供に努め、事業広報の手段や方法についても拡充・検討を行う必要がある。	

(3)市民の自主的な活動の支援

事業	事業内容(平成28年度目標)	平成28年度実績
①芸術・文化活動の支援	○市制施行20周年記念事業の実施 ○市民文化祭の実施 ○芸術文化団体活動への支援 ○芸術文化情報の提供	○特別事業として、ダンスパフォーマンスコンテスト、印西音楽祭、日本の伝統芸能鑑賞会、合唱の集い、ダンスフェスティバル、伝統芸能フェスティバルを開催し、多くの方に来場していただき、文化芸術の振興を図ることができた。 ○市制施行20周年記念事業第21回市民文化祭を実施した。展示部門・催し部門はイオンモール千葉ニュータウンで実施し、多くの来場者があった。発表部門(文化ホール)大会部門(中央公民館、総合福祉センター)で開催した。期間:10月31日~11月20日 ○共催や後援など、活動・発表の場のサポート、事業実施内容の情報提供を行った。 ○公民館、文化ホール等の窓口へのポスター・チラシ等の配布、関係団体への資料提供を行った。
②地域文化活動の支援	○市民の地域文化活動への支援	○木下まち育て塾の企画提案による印西市木下地区歴史講座事業を協働事業として実施した。また、印西ふるさと案内人協会や印西地域史研究会の歴史講座事業を後援するなどの活動支援を行った。
施策評価	A	
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。	
今後の課題	市民の発表・活動の場を提供し、引き続き文化芸術の振興を図ること。	

(4) 子どもをはじめとする次世代の育成

事業	事業内容 (平成28年度目標)	平成28年度実績
①子どもたちの文化芸術活動の充実 ②芸術文化活動を支える人材育成の推進	○文化芸術活動体験の機会の検討 ○芸術文化協会と連携し、地域の文化芸術活動を支える人材育成を支援する。	○文化祭での押花、お茶会、陶芸等の子どもを中心とした体験を実施した。 ○印西市芸術文化協会と連携し、各団体の公益的で自主的な活動のサポートを行った。
施策評価	A	
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。	
今後の課題	活動体験の機会を通じて、引き続き文化芸術の振興と、後継者育成を図ること。	

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護

事業	事業内容 (平成28年度目標)	平成28年度実績
①指定文化財保護事業 ②文化財基礎調査事業 ③埋蔵文化財の保護事業	○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存 ○無形民俗文化財の継承支援 ○文化財の普及啓発 ○仏像調査・石造物調査の実施 ○市内主要遺跡調査の実施 ○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護	○文化財所有者に対する保存・管理における指導・助言、防災設備等の保存管理経費に伴う補助金の交付等の支援を行ったほか、木下貝層、泉新田大木戸野馬掘遺跡、道作古墳群の環境保全に努めた。新たに俺体塚を市指定文化財に指定した。 ○指定無形民俗文化財の保存会や各伝承者に対し、保存・継承に関する指導・助言を行ったほか、保存・継承活動に対し補助金を交付し、支援を行った。 ○「印西市の指定文化財」「木下貝層」などのパンフレットを配布した。また、道作古墳群の現地説明などを実施し、指定文化財の周知等を図り普及啓発に努めた。 ○旧印旛地域において仏像調査を、旧本埜地域において石造物調査を実施した。 ○道作1号墳の非破壊探査を実施した。 ○発掘調査の実施により、開発行為から埋蔵文化財を保護した。
施策評価	A	
評価理由	各事業において、概ね順調に実施できた。	
今後の課題	道作古墳群をはじめとした、史跡等の整備・管理に努め、その活用について引き続き具体的に取り組んでいく必要がある。また、文化財保護と活用に向けた各種基礎調査を継続して実施し、成果の公表に向けた準備が課題である。	

(2) 文化財の活用

事業	事業内容 (平成28年度目標)	平成28年度実績
①文化財の活用事業 ②印旛歴史民俗資料館運営事業	○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用 ○無形民俗文化財の公開 ○埋蔵文化財の活用 ○市域の考古、歴史、民族等の資料の収集・保管・調査・研究及び成果の公表 ○常設展示及び企画展示の実施	○木下貝層の貝化石採集観察会を実施したほか、俺体塚、道作古墳群などの現地説明会を実施し、文化財の活用を促した。 ○指定無形民俗文化財の公開に際し、広報やホームページを利用して周知した。 ○道作古墳群の現地説明時の出商品の展示や、市民アカデミーなどで実物に触れる機会を設ける等で活用を促した。 ○龍腹寺延命地藏尊開帳、浦部初ばやし、小林鳥見神社オビシヤ、印西大師聞き取り調査を実施した。 ○常設展示 開館日数291日 入館者数893人。 ○企画展示 実施 無

	○講座及び体験型事業の実施	○講演会「巡礼の歴史と民族－印西大師を中心に－」参加者37人。 ミニチュア土器作り8人 勾玉作り15人 しめ縄作り13人
--	---------------	---

施策評価	B
評価理由	市内の民族行事について現地調査、聞き取り調査を行い、記録として残すことができた。
今後の課題	来館者を増す事業の立案と実践。

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①市史編さん事業	○市史刊行に向けた資料収集・調査等の実施 ○市史講座等の実施 ○市史及び市史研究誌の刊行 ○市史刊行物の頒布	○資料収集（近代新聞資料、地域情報紙、広告資料）及び史料調査を実施した。その他、市史編さん専門委員編集会議（1回）、同専門部会（48回）を開催した。 ○市史編さん講演会「木下河岸をめぐって」 実施日 平成28年12月11日 実施場所 中央公民館 講師 酒井右二氏（印西市史編さん専門委員） 参加者 49人 ○市史研究誌「印西の歴史」第10号刊行 ○無償頒布668冊（印西の歴史第10号336冊、新印西名所図会332冊）、有償頒布416冊

施策評価	A
評価理由	事業が概ね計画どおりに実施された。
今後の課題	市史編さん事業の市民への広報を通じて周知・理解を図り、事業への協力を促進するとともに事業実施体制の充実を引き続き図ること。

(2) 地域史料の保存と活用

事業	事業内容（平成28年度目標）	平成28年度実績
①地域史料の保存及び活用	○古文書等の調査及び収集 ○古文書等の整理及び保存活用	○市内外所在の地域史料に関する概要調査を実施した。 ○木下交流の社歴史資料センターを開所し、古文書等の整理を進めるとともに、保存と展示を実施した。 展示説明 21件 歴史資料センター 常設展示 開催日数：269日 来所者5,902人 歴史資料センター ミニ企画展示「明治・大正期の絵葉書写真から見る木下・六軒のまちなみ展」 会期：平成29年1月5日～3月31日（71日間） ギャラリートーク 8回
②歴史公文書の収集、整理保管	○歴史公文書の引継、整理保管	○平成28年度引継件数 2,096件 保管総数 約32,000件（未整理分見込む）

施策評価	A
評価理由	事業が概ね計画通りに実施されている。
今後の課題	地域史料の保存環境の整備に努めるとともに、史料の調査研究を進め、市史及び歴史資料センター事業で活用を図ること。

4 評価のまとめ

(1) 評価内訳

具体目標における主な事業毎の評価内訳は、以下のとおり。

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな心と体を育む教育の推進

番号	重点施策	評価
(1)	学ぶ力を育む教育の充実	A
(2)	豊かな心を育む教育の充実	A
(3)	健やかな体を育む教育の充実	A
(4)	学校給食の充実	A

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1)	教育環境整備の充実	A
(2)	学校の適正規模・適正配置の推進	A
(3)	学校安全の推進	B
(4)	開かれた学校づくり	A
(5)	情報化社会に対応した教育の推進	A

II. 生涯学習を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

(1)	生涯学習ガイドの発行	A
(2)	市民アカデミーの充実	A
(3)	公民館・地域交流館事業の充実	B
(4)	図書館サービスの充実	A
(5)	視聴覚資料を活用した学習機会の充実	A
(6)	生涯学習まちづくり出前講座の実施	A
(7)	生涯学習環境の整備・充実	A
(8)	産学官民の連携・協力	A
(9)	社会教育関係団体の支援	A

2 地域で子どもたちを守り育てる環境づくり

(1)	「こども110番の家」の推進	A
(2)	青少年健全育成大会の実施	A
(3)	地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	A
(4)	高齢者や異年齢と関わる事業の実施	A
(5)	成人記念式典の実施	A
(6)	子ども読書活動の推進	A
(7)	家庭教育学級の充実	A

3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実

(1)	スポーツ参加機会の拡充	A
(2)	特色あるスポーツ事業の展開	A
(3)	スポーツ・レクリエーション施設の充実	A
(4)	スポーツ指導者等の育成	A
(5)	総合型地域スポーツクラブへの支援	C

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

1 創造性を育む文化・芸術活動の推進・継承

(1)	(仮称)文化芸術振興計画の策定	A
(2)	文化・芸術に触れる機会の拡大	B
(3)	市民の自主的な活動の支援	A
(4)	子どもをはじめとする次世代の育成	A

2 文化財の保護・活用

(1)	文化財の保護	A
(2)	文化財の活用	B

3 市史編さん事業の推進

(1)	市史編さん事業の推進	A
(2)	地域史料の保存と活用	A

※ 評価基準

- S…事業の目標が達成され，計画以上の施策の進捗が認められる。
- A…事業の目標が概ね達成され，施策の進捗が認められる。
- B…目標が一部達成できなかった。
- C…未達成事業が多く，施策の進捗がほとんど認められない。

各施策，主な事業の目標に対しては，進捗，達成度を総合的に判断し，S～Cの4段階の基準において自己評価しました。

今後の方向性としては，PDCAサイクルの一連の検証をもとに事業を進めることが重要であり，印西市教育委員会の機能充実と活性化を図っていきたいと考えております。

(2) 施策別評価

主な施策における主な事業の評価内訳数は以下のとおり

番号	政策	主 な 施策数	主 な 事業数	主な事業の評価数			
				S	A	B	C
I	生きる力を持ち未来を拓く 子どもを育む 〔学校教育〕	2	9	0	8	1	0
II	生涯を通して学びスポーツ に親しめる環境づくりを推 進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕	3	21	0	19	1	1
III	心に豊かさをもたらす文化 の保護と振興を図る〔文化〕	3	8	0	6	2	0
計		8	38	0	33	4	1

(3) 学識経験者の知見の活用

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項には，事務事業の点検及び評価を実施するに当たっては，教育に関し学識経験を有する方の知見の活用を図ることが定められております。

このため，印西市教育委員会では事務事業が適切に実施されているか，学識経験者3名から書面で意見をいただいております。

※敬称略

分 野	氏 名	役 職
学 校 教 育 分 野	内 田 圭 子	元印西市内中学校長
生 涯 学 習 分 野	板 倉 脩	元社会教育指導員 元家庭教育指導員
ス ポ ー ツ 振 興 分 野	菊 地 謙 治	現印西市体育協会会長

(学校教育分野)

印西市第2次基本計画（平成28～32年度）に伴い、印西市の教育施策・事業についても改定が行われています。教育施策の基調「健やかな心と体を育む教育」及び主な施策「生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む」は、前計画を引き継いでいますが、主な施策については、3つの施策から「学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進」と「安心・安全な教育環境づくり」の2施策になり、主な事業としても15から9事業へと整理され、分かりやすくまとめられています。

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

本施策は、4つの主な事業により、「生きる力」の大本である「知」「徳」「体」とそれらを支える「食」を柱に、学校教育の推進を図る内容が盛り込まれています。教育の根幹に印西市の特色を取り入れながら着実な歩みを進め、どの項目も総合的にみて適切な自己評価がされています。

(1) 「学ぶ力を育む教育の充実」について

① 「きらり輝く印西の子ども育成事業」

「特色ある教育活動への支援」として、様々な分野に目を向け学校への支援を行っていますが、中でも小学校英語の教科化に向けた取り組みは先進的です。

また印西市の特色といえる「小学校（での）駅伝競走大会」も市内大学との連携も定着し、大会出場者のみならず、各小学校での年間を通した児童の持久力・体力の向上につながっています。従来行われていた「ものづくり体験学習」は、伝統文化や職業への関心を高める学習であるため、28年度より各小学校での取り組みに移行していますが、趣旨を踏まえた活用が望まれます。

② 「読書活動の推進」

(ア)～(ウ)の各項目は、読書活動の推進により、子どもの物事への関心や学習意欲を高め、知識の幅を大きく広げる役割を担っています。図書館司書の配置や図書システムの活用により、以前と比べ、図書館環境が向上し、児童生徒にとって親しみやすく利用しやすい状況となっています。学校間や市立図書館との連携を始め、各学校図書館の環境整備と機能の充実は、今後も子どもたちの読書活動の向上に欠かせません。その意味でも大きな役割を果たしている学校図書館司書については、全小学校においても週に2日以上配置が望ましいと考えます。

③ 「幼児教育の充実」

幼稚園・保育園とともにこども園も設立し、就学前の幼児の状況把握や個々のニーズに応じた適切な支援は、保護者を始め子ども発達センターや義務教育学校との連携を一層深めながら推進していく必要があります。(ア)～(ウ)とも、今までの実績を踏まえ、きめ細かな取り組みが継続して実施されています。市内幼児・児童の増加傾向を見据え、今後も個別の支援計画が継続してわかる「コスモスファイル」の充実と活用が望まれます。また幼稚園に配置される非常勤職員が果たす役割は大きく、ますます必要性の拡大が見込まれますので、質実共に充実することを願います。小中学校における介助員・学習指導員は、個々の児童生徒や各学級の学級経営や学力の向上、学習指導に甚大な貢献を果たしていること

は、言うまでもありません。児童生徒数の増加に伴った配置を継続することが、子どもの学力の向上や学級の安定につながるものと確信します。

④ 「学習指導の充実」

「学ぶ力」の育成に向け、主に（ア）子どもの学力向上と、（イ）（ウ）（エ）（カ）教職員の研修、（オ）調査・研究の面からの取り組みが進められています。

（ア）「個性や能力を伸ばす教育の推進」については、基礎学力の定着と学習意欲の向上を目指す「漢字マスター」・算数計算「ILM」・社会科ワークテストが、開発から本格実施へと移行し、特に小学校で活用が充実しています。小学校時代に身に着けた意欲や態度が、中学校の生徒においても生かされ、各自の学習目標の設定や学習の継続した取り組みにつながることを願います。

各校の要請に応じた「学級経営相談・支援」は、若年層の増加に伴い、助言・支援の機会は増加しています。また「学力向上プロジェクト」として、各教科や道徳・特別活動・特別支援教育の授業を、指導主事を派遣して行っています。

（イ）（ウ）（エ）（カ）では、教職員の研修が、様々な機会や場所で実施されています。

（エ）の「校内研修」では、各教科の授業研修が盛んに行われています。学習指導力を向上させるために最も有効な方法であるため、各学校の取り組みも熱心です。夏季休業中等の校内研修時に、人権や情報・道徳などの研修を実施する学校が多く、指導主事の要請を受け指導・助言に当たっています。

（イ）（ウ）については、市教育センターや各学校等を会場に、年間を通して計画的に実施されており、夏季休業中にも多くの講座が開設され、教頭や教務・学年・生徒指導・体育・安全等の主任や若年層等を対象に、全教職員が取り組んでいます。市教育センター指導主事による「SNSネットリテラシー」出前授業も好評であるので、さらに多くの学校で取り入れてほしいと思います。市教育センターが様々な事業内容の開発に取り組んでいることが分かります。

（オ）「教育課題の調査・研究開発」では、「基礎学力調査と活用」として全国学力テスト・県標準学力テストの結果を分析し、市教育センターにおいて分析結果を冊子にまとめ、各校に配布しています。また各学校ごとに傾向と対策やその公表を指導し、学力向上に役立てています。

「教材の研究開発」では、国語・算数・社会・情報の教材開発を進め実績を残しています。今後必要に応じて、小学校英語や道徳についても幅広く情報を集め、開発もしくは個別の対応や情報発信に一層努めていただくと各学校のニーズに応えられるのではないかと思います。

⑤ 「国際理解教育の推進」

国際理解教育の推進については、小学校英語等の国の動向も踏まえ、特に28年度は印西市市制20周年とも重なり、様々な事業が実施されたことは特筆すべきです。小学校低学年からのALTの派遣も順次進められたことを加え、日本人英語コーディネーターが、指定校4小学校に派遣され、研究が進められています。イングリッシュトレセンも2年目となり、軌道に乗ってきています。また中学生海外派遣研修が、印西市としては初めて実施され、オーストラリアでの交流を深

めることができました。学校独自の取り組みもありますが、市制周年行事としてだけでなく、市として継続する方向が望ましいと考えます。

⑥「特別支援教育の推進」

(ア)「特別支援体制の充実」

インクルーシブ教育の推進に向けた取り組みは、国や県においても重要な施策の一つです。本市においても文科省の指定後も、一人一人のニーズに対応した教育の充実に向けた実践が継続して行われています。そのような状況の中で、本市の「特別支援学級介助員」や、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒のための「学習指導員」の配置は、印西市教育の学力面・生徒指導面を確実に支えていると考えられます。生徒児童数の増加傾向の中で、27年度76名であったものが、28年度は69名と減少しています。対象児童生徒の減少によるものかは不明ですが、必要に応じた対応は、しっかりとした実績として残してほしいと思います。

(イ)「就学指導の推進」

例年2回であった就学指導委員会が、3回の開催となったのは、小学校入学時だけでなく、途中学年での転級、中学校進学時、特別支援学校への転出入などの場合もあり、対象人数が増加したためかと思われます。一人一人の状況に応じ、各委員の熱心な話し合いが進められ、適切な方向性を見出していることは、他の周知すべき内容です。

⑦「キャリア教育の推進」

小学校職場見学学習や、中学校職場体験学習（印西市生き活き体験）は、キャリア教育推進のための有効な手段だと考えます。また同時に地域との連携にもつながっており、今後も児童・生徒に学習の場を保障するよう教育委員会の支援をお願いしたいと思います。学校ごとに児童生徒の人数に差があり、事業所の確保に苦慮している場合もあるかと思しますので、調整や助言を引き続きお願いします。

(2)「豊かな心を育む教育の充実」

①「道徳教育の充実」

道徳の教科化を目前にして、各校の取り組みも急務です。授業内容・指導法に加えて、評価の手段・方法についても検討しなければなりません。教育委員会の指導や適切な情報提供、きめ細かな支援が必要となりますので引き続きお願いします。

○「道徳教育・・・」○「・・・実践研修会」の2つの教職員への指導は重要ですが、子どもに対して道徳性や道徳的実践力を付けるための実践も行われているので、(体験学習・交流学习・協働学習等)明記してもよいのではないかと思います。

②「人権教育の推進」 ③「体験活動の推進」

人権教育については、教職員の研修や、各校での人権標語や人権集会など学校の実態と必要性に応じた実践がなされています。またさまざまな体験学習を教育委員会が主催したり、各学校で取り組んだりしています。教育は、積み重ねです。継続していただきたいと思います。

「いじめ」については、「アンケートの定期的な実施」が、取り上げられていま

すが、その活用や「いじめ防止」についての組織や実践があるので、別に項目を立ててはいかがかと思えます。例えば、市及び学校のいじめ防止基本計画の作成と見直し、アンケート、事後相談、学校いじめ防止会議の設置、教育委員会でのいじめ防止定例会議などの内容が書いてあると、せつかくの実績が分かりやすく点検・評価されるのではないかと思います。

④「郷土愛を育む教育の推進」

いわゆる伝統校を中心に伝統体験を行っていますが、永治小閉校後も地区の取り組みとして継続することを願います。またニュータウン地区の卒業生で再び市内に在住する例もあるようですが、児童生徒に郷土への愛着と郷土での活躍を想起させるような実績の積み上げを期待しています。

⑤「芸術文化体験事業の充実」

児童数の増加により、日程等の調整が難しい場合もあるかと思えますが、児童生徒の貴重な体験の場として今後の継続を希望します。

⑥「適応指導教室事業の推進」 ⑦「教育相談の充実」

「緑のまきば」や「教育相談」により、子どもや保護者が支援や助言を受け、不登校や悩みからの改善につながっています。子どもの通室・相談件数などの実績は分かれますが、「緑のまきば」の指導員や相談委員の配置・実践内容・人数などについても明記されていると、自己評価「今後の課題」の意味が明確になると思えます。

⑧「学校問題対策の指導・支援」は、管理職を含む教職員の力強い相談役を担っています。相談内容は幅広く、経験に基づいた指導・支援が効果を上げています。

(3) 「健やかな体を育む教育の充実」

①「学校体育の充実」 ②「運動部活動の充実」

全国体カテストの結果からみても、本市の児童生徒の体力は平均以上です。小学校においては、1学期は各種陸上競技に向け、2学期は駅伝・持久走、3学期は縄跳びなどの種目に、全校で取り組む学校が多く、行間休みを利用した体力向上を行っている学校も多いです。また中学校での運動部活動も盛んであることなどが体力向上に効果を上げていると思えます。中学校の部活動には、交通費が補助され、保護者の負担の軽減につながっています。

③「学校保健事業の推進」

学校保健安全法に基づき、本市の学校保健に関する事業は、どの事業も綿密な計画のもと実績を積み上げてきています。前年度の点検が次年度の改善につながっている点も評価すべきです。

(ア)「健康教育の推進」について「保健指導教材の整備」と「薬物乱用防止教室」があげられていますが、法で定められている「学校保健計画の作成」と、計画に基づいた指導がなされているので、教材の整備の前に明記してほしいと思えます。

(イ)「学校保健会」では、学校医や薬剤師との連携を密に行っており、児童生徒の(ウ)「健康診断の実施と事後指導の徹底」(エ)「小児生活習慣病の予防」

(オ) 「口腔衛生事業の推進」などで優れた実績が見られます。特に健康診断後の「生活習慣病予防教室」や「ブラッシング指導」を学校・教育委員会・関係機関が協力・連携して全小中学校で実施し、将来にわたる健康の維持について、児童生徒の関心を高めていることは重要です。今後も工夫を重ね、充実させてほしいと思います。

(カ) 「保健室の果たす機能」として、熱中症や感染症の予防、けがの防止、疾病の適切な処置へ向けた指導、心身に関わる相談を日常的に行っています。「〇3」として「感染症・ケガの予防と適切な措置」と明記してもよいと思います。

養護教諭の連携と研修の機会の確保については、今後ともお願いしたいと思います。

④「学校環境衛生事業の推進」は、毎日の水質検査のほかに、薬剤師による照度・空気環境・ダニアレルゲン検査など、定期的に行われ、適正でない場合は指導を受けます。空気環境は空調整備事業により改善が見込まれます。他の改善点に向けても大規模改修等を利用し、教育委員会の支援をお願いします。

(4) 「学校給食の充実」

(ア) 「食に関する指導の推進」では、栄養教諭・栄養士部会で作成した、「印西市食育ミニマム」による栄養教室や食育の授業が計画的に行われています。小1・3学年だけでなく、2・4・6学年でも実施する学校が増え、実績を上げています。

(イ) 「安全・安心な学校給食の実施」として、〇157をはじめとする細菌・ウイルスへの対応などの衛生管理に配慮しています。赤ダニの発生による対応には大変苦慮したようですが、予期せぬことも発生しますが、事後の対応を迅速に行い、被害の長期化を防いでいただきたいと思います。食物アレルギーへの対応は、マニュアルに沿って修学前から丁寧に実施されています。新センター開始後のアレルギー食の提供について準備を進めていただきたいと思います。

2 「安全で安心できる教育環境づくり」

本施策は、5項目の主な事業により、学校の教育環境の整備とその安全性の確保に努めた事業が幅広く展開されており、評価項目はいずれも具体的な内容が示され、内容も総合的にみて妥当であると考えます。

(1) 「教育環境整備の充実」

教育環境の整備は、教育委員会の重要施策ですが、合併に伴った大きな事業の整備が軌道に乗り、計画的に整備が進められています。

①「小中学校施設整備改修事業の推進」では、小中各1校の大規模改修が実施され、小中学校の普通教室空調整備が完了しました。また30校のトイレの改修・洋式化も順次進められています。災害時の避難拠点としての役割にも対応できることは、重要だと考えます。

- ②「就学援助の充実」は、家庭の経済的な2極化傾向も進む中で、教育の機会均等において切実な問題と捉え、困窮する家庭へ適切な援助が行われています。29年度からの「高校生等奨学給付金交付事業」が、計画的に準備されることを期待します。
- ③「学校備品の計画的な更新」について、特に児童生徒の机・椅子の老朽化が急務な課題でしたが、小学校1年から毎年順次整備が進められています。ただし中学3年まで9年間を要するので、それまでの間、中学校の状況がやや危惧されます。整備後も計画的な更新の実施を望みます。
- ④「学校給食センター整備事業」は、施設設備の老朽化と合併に伴う整備の問題を抱え、教育委員会としても大変大掛かりな事業として進められてきましたが、28度に新センター建設工事、印旛のアレルギー室設置工事が完了し、29年度からの本格開始に向けての準備が確実に進められ、学校や保護者の期待も大きいものと思います。3センターで、滞りなく配給ができるように、今後も10年先の見通しを持って、設備の更新を遺漏なく実施してほしいと考えます。指導課の予算の多くが給食関係という現状ですので、保護者や地域への広報にも努めていただきたいと思います。アレルギー食の提供については、市としては初めてなので、材料選定から子どもの口に入るまで、まずは安全性を第一に慎重に進めていただきたいと思います。

(2) 「学校の適正規模・適正配置の推進」

印西市の小中学校は、50人以下から1,000人を超える学校までが混在し、2極化の傾向は加速しています。子どもの学びの場として望ましい教育環境や人的配置・人数等を検討し、「印西市学校規模・適正配置基本方針」の策定がなされたと考えます。

今後どのような形でどのように推進していくのか、保護者や地域の関心も高まっています。市全体としての状況と今後の見通しを情報提供し、地域に十分に理解していただくことはもちろんですが、保護者や地域住民が主体となって現状の解決に向け十分にまた建設的に意見を交換し、総合的に将来を見据えた結論が導き出されることが肝要だと考えます。ただし、永治小は約1年で統合がなされましたが、多くの理解を得るためには、5年計画等ある程度の見通しは、示してもよいと考えます。また校長等を対象とした市全体の状況説明会も計画して確実な情報の提供に努めていただきたいと思います。

(3) 「学校安全の推進」

学びの場としての学校環境の安全が保持され、子どもが心身ともに信頼感・安心感を持って過ごせることが学校の基本にあり、その上で集中して学習や運動に励み、能力向上に努めることができると考えます。学校安全は、学校教育の基盤です。

- ①「安全教育の推進」では、各学校は、法に基づいて「学校安全計画」を作成し、各種教室・学習を教育委員会の指導・支援により実施しています。避難訓練は、地震・火災に加え、不審者対応の訓練を年間を通して計画的に実施しています。突然発生する災害等に、自然に身体が動くようになるまで訓練を重ねておくことは、生涯を通じて重要です。

②「安全管理の充実」

(ア) 「児童生徒の安全確保」において、メール配信システムは、即時性があり、保護者への情報提供として有効だと思います。今度多発が懸念される豪雨・台風による洪水・水害についても学校ごとに対応を練り、地理・地形上必要のある場合には、避難訓練の実施も検討していただきたいと思います。このほか、家人からのネグレクト・虐待から子どもの安全を確保しなければならない場合もあるかと思っています。今後も様々な場面・例を想定した危機管理を推進していただきたいと思っています。

(イ) 「通学路の安全確保」は、各課との協力のもとに対応・対策が進められています。

(ウ) 「学校管理下における災害共済給付」については、けが・事故の際には、センター法に基づき、各学校とも適切な処理を行っています。掛け金の半額補助により、全員加入が実現しています。

(4) 「開かれた学校づくり」

「開かれた学校づくり」は、情報公開と地域との連携を柱とした内容になっていますので、①「開かれた学校教育の推進」、②「地域との連携」としてもよいかと思っています。

印西市は、教育センターホームページを中心に、各学校ごとにホームページを開設し、情報発信に努めています。アクセス件数が27年度と比べ約100万件増加したことから、保護者や地域の関心の高さが分かります。定期的な情報発信を今後ともお願いいたします。

学習に関わる地域の人材や教育資源の活用、幅広い地域ボランティアの活用など今後とも学校や地域の特色を生かして充実していただきたいと思っています。子どもたちの郷土への関心や愛着は、地域に住む一人一人とのつながりから始まるものと考えます。

(5) 「情報化社会に対応した教育の推進」

印西市の校務システムの整備は、先進的で他市町からの問い合わせ、視察等も多く、画期的な運用を行っています。その分セキュリティの問題や、職員への研修、メンテナンス対応には、労力と時間を要しますが、情報担当者を始め市教委全体でカバーしていただいています。システムが整備され、運用も軌道に乗っていますので、現在の状況をさらに細かく精査して機能の向上を目指し、本市の特色をさらに生かすよう願います。

①「学校教育の情報」

(ア) 「教育関係資料の収集・活用・教育広報」及び(イ) 「情報教育及びICT活用の推進」では、特に学校間グループウェア文書管理システムの整備により、ペーパーレス化も促進されています。データの整理と蓄積により、事務管理の効率化も図られるようになりました。他市町からの転入職員等で当初戸惑う場合がありますが、習得後は事務時間の軽減につながっています。また端末・サーバー等のトラブルが発生した場合には、担当指導主事を中心に迅速に対応していただくことができました。500台を超える職員端末と児童生徒用の端末も各校40台ずつあり、できればシステム補修専門のエンジニアを配置していただくことが望

ましいと思います。

「学校図書館システムの活用促進」については、学校間の情報の共有は迅速ですが、実際の図書の移動における手段が確立されれば、さらに活用推進が図られると思います。

(生涯学習分野)

どの項目についても28年度の実績についての確な「施策評価」「評価理由」「今後の課題」が記されていると感じます。

II 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

1 年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動

1 生涯学習活動の支援

「生涯学習ガイド」は、幅広い情報を丁寧に作成されており、どの年代の人にとっても読みやすく利用しやすいと思われます。更に多くの市民が手にすることができるように、集会や会議等での啓発活動を試みることや、公的な施設への配布だけでなく、私的施設への配布等も検討してはいかがでしょうか。

「市民アカデミーの充実」

「市民アカデミー」には2年間担当者としてアカデミー生と共に学びましたので感想を記します。28年度の実績に書かれてあるように「1年生」「2年生」「地域活動過程」のどれもが充実した活動であると思います。市職員から市政活動の実態と課題について学ぶ事は、市政を身近に感じ、市政に興味を持つためには必要な講座と思います。大学の教授から歴史や健康等について専門的な事を学ぶこと、地域で活躍する市民の話聞いて学ぶこと、また印西市を出て様々なことを学ぶことはアカデミー講座の魅力ある講座の一つです。今後も続けていくことを強く希望します。

「市民が望む講座」「応募方法」「卒業生の活躍の場の確保」等々、今後も考えていかなければならない事もあります。現状を良しとせず、更に挑戦して欲しいと思います。

「公民館・地域交流館の充実」

それぞれの館が工夫して事業を進めていることが窺えます。評価が「B」となっている理由に「参加人数が定員に満たない」とありました。市民に必要なだと考えて企画し、実施した事業であっても集客が定員に満たないこともあるかと思います。難しい問題です。地域住民のニーズを得るためにアンケートを採る、他市町の情報を得る、斬新な企画等はすでに実施されていると思いますので、集客数を見ながら集客への取り組み方法を考えることや定員数を考え直すことで良いのではないのでしょうか。

今後も「行ってみたい公民館・地域交流館」「行ってよかった公民館・地域交流館」を心掛け、地域密着の場所となり続けることを望みます。

「図書館サービスの充実」

利用者やレファレンスの受付が増えている事は、図書・視聴覚資料と図書館のソフト面の充実を物語っていると思います。今後ますます増えてくる市民の要望にこたえられる図書館を期待します。

「視聴覚資料を活用した学習機会の充実」

家庭教育学級での使用が主な実績と思います。3年間、家庭教育学級を担当しました。1回毎の家庭教育学級での参加者は多くありませんでしたが、資料は大変に良いものなので多くの人に視聴して欲しいと思っていました。今後とも資料を広く紹介する等の活動をお願いします。

「生涯学習まちづくり出前講座の充実」

事業の目標を解決するためには大変に素晴らしい取り組みと考えます。今後も、事業の認知度の高まりとともに利用が大きく伸びていくと考えられます。また、より専門的な知識を得たいと考える市民も増えてきます。異動のある職場なので市民が満足する講座を開くことは大変なことと思いますが、継続と充実を願っています。

「生涯学習環境の整備・充実」

安全面、使いやすさを考え継続的・計画的に公民館、地域交流館、図書館の改修を進めていかなければならないと考えます。館によっては、多くの事業が重なると駐車スペース確保が問題となります。近隣施設との連絡調整が必要になります。

「産学官民の連携・協力」

専門的分野の知識を得たい、活動をしたいという市民の声が増えてくると思います。全てに対応することはできませんが、今後も大学や企業の協力を求めていかなければならないと思います。

「社会教育関係団体の支援」

積極的に活動している社会教育団体への支援は今後も必要です。しかし、継続期間については市と関係団体との話し合いが必要です。経済的支援と運営支援とを分けて考える事も大切です。地域活動の窓口になる仕組み作りの確立を期待します。

2 地域で子どもたちを守り育てる環境作り

「こども110番の家」の推進

「こども110番の家」のステッカーは多く目にすることができます。設置する家が増えることで、その地域は犯罪防止に積極的であることを示すことができますので、引き続き設置の協力を求めていくことは必要と考えます。「挨拶を交わし合う地域は犯罪が少ない」と犯罪防止の専門家が言っていました。運営委員会時に一言触れていただければありがたいです。

「青少年健全育成大会の実施」

企画運営には様々な機関からの要望もあり大変なことと思います。課題となっている「参加者の増加」「大会の啓発活動」については、引き続きの検討を望みます。

事業は「青少年の健全育成」のためには大切と考えます。今後も魅力ある大会となるようお願いします。

「地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実」

地域のコミュニティ作りの一つの方法としては有効な事業と考えます。実施中学校区の拡大を図るとともに、今一度「ねらい」「必要性」について話し合いをする必要があると思われま

「高齢者と異年齢と関わる事業の充実」

登録団体の減少、活動の縮小という現状の中で、異年齢と関わる活動を同じように実施する事は難しいことと思われます。28年度の実績にある「グランドゴルフ」等を異年齢で楽しめる活動を続けていくことが事業の充実になっていくと思われます。

「成人記念式典の実施」

成人者に自覚を持ってもらうためにも、運営委員会方式は今後も続けて欲しい体制です。式典の企画運営に関わる仕事が主ですが、今後は出演協力者との交渉等にも関わること等、一歩進んでいくことも考えて欲しいと思ひます。(学業や仕事で忙しいとは思ひますが)

「子ども読書活動の推進」

図書館での読み聞かせに参加する人数の多さから、子どもの本への関心度の高さが窺ひえます。学校での読み聞かせにも同様の事が言えます。家庭教育学級での読み聞かせの指導はとても良い取り組みと考へます。ぬいぐるみといっしょのお話会は、子どもの喜ぶ顔が見えるようです。

「家庭教育学級の充実」

時代を超えて重要な事業です。経験の中で、時には参加者が思うように集まらない時もありましたが、「座談会形式」にした事で充実した時間を過ごした事もありました。

学級生の横のつながりが深まり、数年に渡り続けている学級もあります。

多くの人が参加できるような日時を考へていくことも必要になってくると考へられます。

Ⅲ 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る

1 創造性を育む文化・芸術の推進・継承

「文化・芸術に触れる機会の拡大」

文化ホール主催事業の有料公演の達成率が目標を下回ったと評価してひいます。しかし、事業の中には入場できない人が出るほどの事業もあつたと聞きます。日本の様々な文化・芸術に触れる機会を市民に与える事が大きな目標であるので、引き続き事業広報の手段や方法について拡充・検討を行う必要もあると思ひます。あまり集客数に固執することはないと考へます。

「市民の自主的な活動の支援」

事業内容や実績からも十分な施策であり、支援も市民のニーズにんえ行き届いていたと思われます。

「子どもをはじめとする次世代の育成」

地域の文化芸術活動に積極的に参加している青少年の姿を見てひいます。「活動体験の機会を通じて・・・」と言う課題が残されているようですが、正に大事な点と思われます。実際に体験することで、地域の文化に興味を持ち活動する小学生や中学生がでてくるものと思へます。学校との連絡・調整を検討しては如何でしょう。

2 文化財の保護・活用

「文化財の保護」

印西市には多くの文化財があります。開発が進む中で調査・保護していくことは大変な事ですが、今後も計画していく必要があります。市職員だけでは難しい事もありますので、やがては市民の協力も必要になってくるのではないのでしょうか。

「文化財の活用」

活用できる文化財は活用してこそ価値があると思います。印旛歴史民俗資料館にある昔の民具等を実際に使用することで、保護する事の大切さを学ぶのではないかと思います。

古墳や古文書、昔の地図等を歴史教育で使用できることや、様々な物を様々な場面で活用できることを紹介することも大切なことと考えます。

3 市史編さん事業の推進

「市史編さん事業の推進」と「地域資料の保存と活用」はどちらも概ね計画通りに実施されているという評価です。資料収集、調査、講演会、企画等々、今後も事業の推進を願っています。旧印旛村、旧本埜村の歴史についての講演や展示を希望します。

(スポーツ振興分野)

まず、「Ⅱ. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する」を政策とし、「3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実」を施策として、関係機関等と調整を図りながら展開していることと思われる。また、スポーツ振興における施策の体系が整理されており、分かりやすい内容となっております。

「3 市民が参加しやすいスポーツ環境の整備と推進体制の充実」において、様々な教室を開催し、体力の向上や健康の保持・増進はもとより、スポーツに親しむ機会の拡大を図るための取り組みが窺えます。今後も、市民ニーズに応えた、魅力ある教室の開催を期待いたします。

次にハード面についてですが、各施設(テニスコート等)の老朽化が見受けられること、松山下公園においては、イベントや大会等が重なることにより駐車場が不足してしまうことが見受けられます。計画的な施設改修並びに駐車場の整備の対応について検討をお願いし、順調に推移している施設利用の更なる拡大のために、スポーツ環境の整備の充実を期待いたします。

そして、スポーツ推進体制の充実においては、トップレベル選手との交流機会の提供として教室を行っており、トップレベルの選手から技術力や競技に取り組む姿勢等を学べることはいろいろありますので、今後とも継続して行っていただきたいと思います。印西から世界へ羽ばたく選手を育成するためにも、環境整備は大変重要な部分となりますので、積極的にそのような機会は作り出し、提供するべきだと考えております。

また、総合型地域スポーツクラブの新規設立については、地域の特性や実情を十分に把握するとともに、数年分の分析等を踏まえ検討していくことと考えます。

最後に、スポーツは単に健康や体力づくりを図るだけでなく、コミュニティ形成、青少年の健全育成等にも大きく関わっていくことから、今後も様々な手法や仕組みを検討され、

市のスポーツ振興となる事業展開を期待いたします。
